

3 {  
4  
5 #  
6  
7 #  
8 //  
9 =  
10  
11 ”  
12  
13  
14  
15 #

Web 制作者のための

[ サブライム テキスト ]

# Sublime Text

## の教科書

今すぐ最高のエディタを  
使いこなすプロのノウハウ

こもりまさあき 監修 上野正大、杉本 淳、前川昌幸、森田 壮 著

強力なコード編集  
& 拡張機能に

恋に落ちる  
ユーザーが  
増加中 ♥

劇的にコーディング作業がはかどる!

バージョン3&2対応

基本設定から特撰パッケージまで、  
この一冊で完全網羅

便利な対訳付きメニュー一覧、使いやすくなるための環境設定のほか、  
筆者が実際にインストールしているパッケージを80本解説!

## 著者プロフィール

---



上野 正大 (うえの・まさひろ)

ChatWork株式会社 技術部エンジニア。1983年生まれで2児のパパ。Webサービス開発系企業でC#、PHP、Python、JavaScriptなどで開発経験を積み、TitaniumコミュニティであるTi.Developers.meetingを主催。そこからの縁でChatWork株式会社へ入社。現在は同社モバイル開発チームリーダーとしてiOS/Android開発を行っている。

- Twitter @astronaut
- GitHub <https://github.com/astronauts>



杉本 淳 (すぎもと・じゅん)

understandardの屋号で活動するフリーランス。主にHTML、CSS、JavaScriptを用いた実装、WordPressでのサイト構築を担当。Webコンテンツ運営会社、Web制作会社でのデザイン、HTML / CSSコーディング業務を経て2011年に個人事業主として独立。趣味はポルダリング。いぬ派。

- Twitter @understandard
- understandard <http://www.understandard.net>



前川 昌幸 (まえかわ・まさゆき)

岡山県でWeb制作会社に勤務。okayama-js主宰。主にマークアップ、フロントエンド、サーバサイドプログラミングを担当。業務でのWeb制作を行いながら、岡山や東京などでCSS Niteなどのセミナー・勉強会にマークアップやJavaScriptなどのテーマで登壇。また、okayama-jsなどのWebに関連した勉強会の企画や主催も行う。著書に『現場でかならず使われている CSS デザインのメソッド』(MdN / 共著)、『現場のプロが教えるWeb制作の最新常識』(MdN / 共著)がある。

- Twitter @maepon
- ブログ <http://maepon.skpn.com>



森田 壮 (もりた・そう)

ソウラボの屋号で活動するフリーランスWebデザイナー。アパレル会社のEC担当からWeb制作の世界へ。その後、デジタルハリウッドを卒業し、制作会社でデザイナー、ディレクターを経てフリーランスへ。企画からデザイン、コーディング、構築までサイト制作全般を担当。制作のほかにも、講師業や株式会社フィフティフォレストでEC業務など。趣味はマンガとラーメン。猫も好きだけど、いぬ派。主な著書に『Web制作者のためのSassの教科書』(インプレスジャパン / 共著)がある。

- Twitter @sou\_lab
- ブログ <http://blog.sou-lab.com/>

## 監修者プロフィール

---



こもりまさあき

1990年代前半に都内のDTP系デザイン会社にてアルバイトをはじめ、入出力業務、デザイン業務、ネットワーク関連業務に並行して従事。2001年、会社を退職しそのままフリーランスの道へ。案件ごとに業務内容や立ち位置が異なるため、職域的な肩書きはなし。近著に『基礎から覚える、深く理解できる。Webデザインの新しい教科書』(MdN / 共著)など。現在は、沖縄を拠点にして新事業の立ち上げ準備中。

- Twitter @cipher

Apple、Mac、Macintoshは、米国Apple Inc.の登録商標です。  
Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。  
そのほか、本文中の製品名およびサービス名は、一般に各開発メーカーおよびサービス提供元の商標または登録商標です。なお、本文中には™および®マークは明記していません。

## はじめに

本書は、テキストエディタアプリケーションである「Sublime Text」(サブライム・テキスト)のガイドブックです。

Sublime Textは、Web制作者の皆さんが普段利用される素敵なGUIを備えたオーサリングツールとは比べものにならない、必要最低限の機能だけしかないシンプルで無骨なテキストエディタ(70USドル)であるにもかかわらず、世界中のWebデザイナーやWebデベロッパーの間で大人気となっています。日本では「Sublime Text 2」が登場した3年ほど前から、海外の情報に詳しい一部のWeb制作者たちが利用し始めたことで、このエディタの存在が広く知られることになりました。

Web制作に利用するテキストエディタは、その利用目的や操作性において利用者の好み色が濃く表れるものです。総合開発環境として有名なEclipseをはじめ、WebStormやPhpStorm、秀丸やVim、Emacsなど、ときにはその操作性や使い勝手の差をそれぞれの愛用者同士が自慢しあう光景も見られます。また、スニペットをはじめとしたこれまで自分で溜め込んだ資産をホイソレと手放すことができないのも事実。そんな中であって何故Sublime Textがここまで人気を集めるのか、それはパッケージシステムを使った拡張性の高さから、多様な環境や開発言語に自分好みで柔軟に対応できる点が人気を得ている理由の1つともいえるでしょう。

本書は、「Sublime Textのことなら俺にまかせろ」とでもいいかげんな現役でWeb制作に従事する4人の執筆陣が、テキストエディタとしての基本的な操作方法はもちろんのこと、現在の多様なWeb制作のニーズにあわせて使えるパッケージを厳選しその用途や使い方を解説しています。本書が、Sublime Textをうまく使いこなせない方はもちろん、これから使い始めようと考えている方、そしてより多くのWeb制作者の一助となれば幸いです。

2014年2月  
こもりまさあき

# CONTENTS 目次

著者プロフィール .....	2
はじめに .....	3

## 第1章 Sublime Text を導入しよう 9

1-1 Sublime Text とは .....	10
Sublime Text のここがすごい .....	11
バージョン2と3の違い .....	14
1-2 Sublime Text のダウンロードとインストール .....	15
Sublime Text をダウンロードする .....	15
Sublime Text のインストールは簡単 .....	16
ライセンスを購入する .....	16
最新版へのアップデートは自動で行われる .....	17
1-3 Sublime Text の画面解説 .....	18
画面各部の名称 .....	18
集中して作業できる全画面表示モード .....	21
1-4 対訳付きメニュー一覧 .....	22
1-5 Sublime Text の環境設定 .....	28
環境設定と設定ファイル .....	28
環境設定を変更する .....	30
ショートカットキーを変更する .....	35
1-6 パッケージのインストール .....	38
Package Control をインストールする .....	38
パッケージをインストールする .....	39
Package Control でよく使う機能 .....	42
1-7 日本語環境の設定 .....	46
Shift_JIS のサポート .....	46
Windows 版固有の設定 .....	47
メニューの日本語化について .....	48
1-8 テーマの変更 .....	50
テーマをインストールする .....	50
Soda を利用した外観のカスタマイズ .....	52
アイコンの変更 .....	53

<b>2-1 基本的な編集機能</b> .....	<b>56</b>
ほかのエディタと共通する機能は同じように使える.....	56
同じ文字列をまとめて選択して編集する.....	57
複数箇所をまとめて編集する.....	59
コラム：ステータスバーで選択状態を確認する.....	60
行単位で編集する.....	60
履歴からペーストする.....	62
画面の分割機能を使いこなそう.....	62
コラム：Sublime Text 3 で強化された画面の分割機能.....	64
Sublime Text の多彩な検索／置換機能.....	65
Goto 機能ですばやくジャンプする.....	67
<b>2-2 コーディングルールに対応する</b> .....	<b>70</b>
ユーザー環境設定 (Preferences) での調整.....	70
言語ごとに設定する.....	73
ファイル単位で設定する.....	77
案件やプロダクト単位で設定する.....	79
<b>2-3 プロジェクトの活用</b> .....	<b>81</b>
プロジェクトの簡単な設定方法.....	81
プロジェクトの設定.....	82
複数のディレクトリをプロジェクトとして扱う.....	85
そのほかの機能.....	88
<b>2-4 コード入力に役立つ機能</b> .....	<b>89</b>
言語に特化したパッケージを導入する.....	89
シンタックスを指定する.....	90
スニペット／コード補完を利用する.....	90
スニペットを作成する.....	91
ブレースホルダを利用したスニペット.....	93
コード補完の編集.....	97
Sublime Text 3 で強化された Goto.....	101
<b>2-5 HTML / CSS に役立つ機能</b> .....	<b>103</b>
パッケージの活用を前提に.....	103
Sublime Text 自体の機能.....	104
<b>2-6 プログラミングに役立つ機能</b> .....	<b>106</b>
プログラミング向けの入力補助.....	106
Sublime Text からプログラムを実行する.....	108
ビルドの対象を追加する.....	109
ログファイルやデータファイルを処理する.....	112

## 第3章 パッケージで機能拡張しよう 115

3-1	パッケージについてもっと詳しく知っておこう	116
	パッケージと Package Control	116
	パッケージの種類	117
	パッケージの構造	118
3-2	パッケージを管理する	121
	パッケージの整理整頓は重要	121
	Package Control を使わないパッケージのインストール方法	123
3-3	パッケージの探し方	125
	Package Control のサイトから探す	125
	Package Control 以外でパッケージの情報を探す	129
3-4	パッケージを開発する	130
	パッケージの作り方	130
	実際に作ってみる	132
	コラム：Package Control に登録してみる	136

## 第4章 プロが教える特撰パッケージ 137

4-1	どんなときにも役に立つ必須パッケージ	138
	サイドバーを多機能に拡張する	138
	SideBarEnhancements	138
	改行コードをすばやく確認／変更する	141
	LineEndings	141
	コラム：Sublime Text 3 で改行コードを表示する	143
	行末の半角スペースを削除する機能を強化する	144
	Trailing Spaces	144
	コラム：パッケージ設定ファイル	145
	ファイルのオープンや切り替えをさらにスムーズにする	146
	Focus Last Tab	146
	Quick File Open	147
	GotoRecent	148
	RecentActiveFiles	148
	Zip Browse	149
	ファイルの履歴や新規作成を便利にするパッケージ	150
	Local History	150
	SublimeOnSaveBuild	151
	AdvancedNewFile	152
	黒い画面をすばやく開く	153
	Terminal	153
	コラム：Mac で Sublime Text をターミナルから開く	155
	キーバインドの設定を一覧で表示する	156
	BoundKeys	156

選択の拡張機能をさらに便利にする .....	157
SuperSelect .....	157
再起動時にスクロール位置やcaret位置も復元する .....	157
BufferScroll .....	158

## 4-2 Web 制作に役立つパッケージ ..... 159

リセット用 CSS やフレームワークをすばやく導入する .....	159
Nettuts+ Fetch .....	159
CDN に登録されているライブラリを簡単にリンクする .....	162
cdnjs .....	162
コードのカッコを見やすく & 修正しやすくする .....	163
BracketHighlighter .....	163
コード補完やコードチェック、コード整形を行う .....	165
SublimeCodeIntel .....	165
SublimeLinter .....	165
All Autocomplete .....	167
Alignment .....	167
Tag .....	168
CSScomb .....	169
インデントを賢く削除する .....	170
Smart Delete .....	170
CSS の宣言をすばやく探す .....	171
Goto-CSS-Declaration .....	171
HTML をブラウザでプレビューする .....	172
View In Browser .....	172
Browser Refresh .....	173
LiveReload .....	174
Live Style .....	175
CSS プリプロセッサと HTML テンプレートエンジンを使いこなそう .....	177
Sass .....	177
SCSS .....	177
SASS Build .....	178
SASS Snippets .....	178
Compass .....	178
LESS .....	179
LESS-build .....	179
Stylus .....	179
Haml .....	180
Jade .....	180
Jade Build .....	180
Ruby Slim .....	181
Handlebars .....	181
CSS フレームワークを利用する .....	182
Twitter Bootstrap Snippets .....	182
Bootstrap 3 Snippets .....	183
Bootstrap 3 Jade Snippets .....	183
Foundation 5 Snippets .....	184
WordPress サイトの制作に役立つパッケージ .....	185
WordPress .....	185
Search WordPress Codex .....	186
Stack Overflow から情報を探す .....	187
Search Stack Overflow .....	187
CSS プロパティの最新情報を「Can I Use」で確認する .....	188
Can I Use .....	188

## 4-3 Emmet や Hayaku で HTML / CSS の入力を効率化する ..... 189

Emmet で HTML / CSS をすばやく入力する .....	189
Emmet .....	190
Hayaku で CSS をより柔軟に入力する .....	199
Hayaku .....	199
CSS 内の数値をショートカットキーで増減する .....	201
Inc-Dec-Value .....	201

便利な補完機能や画像ファイルの変換機能を追加する .....	202
AutoFileName .....	202
Colorpicker .....	204
Image2Base64 .....	205

#### 4-4 JavaScript での開発に役立つパッケージ ..... 206

JavaScript のスニペット/コード補完系パッケージ .....	206
JavaScript Console .....	206
jQuery .....	208
Underscore.js snippets .....	209
AngularJS .....	210
Mocha Snippets .....	211
JavaScript Patterns .....	207
AndyJS2 .....	208
Backbone.js .....	209
Jasmine .....	211
altJS 用パッケージを利用する .....	212
Better CoffeeScript .....	212
Better TypeScript .....	213
Dart .....	215
JavaScript ファイルを圧縮する .....	216
JsMinifier .....	216

#### 4-5 サーバサイドから Markdown までさまざまな言語用のパッケージ ..... 217

Python 開発に役立つパッケージ .....	217
Python Auto-Complete .....	217
Python Flake8 Lint .....	218
API ドキュメント用のコメントを記述する .....	219
DocBlockr .....	219
Markdown 形式のドキュメントをブラウザでプレビューする .....	221
Markdown Preview .....	221
シェルスクリプトや Apache の設定を見やすくする .....	222
Dotfiles Syntax Highlighting .....	222
ApacheConf.tmLanguage .....	222

#### 4-6 ソース管理システムや簡易 Web サーバを運用する ..... 223

Git でソース管理/バージョン管理を行う .....	223
sublime-github .....	223
SublimeGit .....	225
Sublime Text で簡易 Web サーバを運用する .....	228
SublimeServer .....	228
FTP でファイルをアップロードする .....	229
Sublime SFTP .....	229

付録：ショートカットキー一覧 .....	238
----------------------	-----

付録：用語集 .....	242
--------------	-----

索引 .....	250
----------	-----

## 第1章

# Sublime Text を導入しよう

第1章では、Sublime Textの概要からインストール、そして最初のセッティングまで一気に紹介します。導入の前にSublime Textがどんなエディタかを知れば、きっとその魅力がわかってもらえると思います。メニューの一覧や、環境設定などSublime Textのキホンがすべて詰まった章になっています。

1-1	Sublime Text とは	10
1-2	Sublime Text のダウンロードと インストール	15
1-3	Sublime Text の画面解説	18
1-4	対訳付きメニュー一覧	22
1-5	Sublime Text の環境設定	28
1-6	パッケージのインストール	38
1-7	日本語環境の設定	46
1-8	テーマの変更	50

## ① - 1

## Sublime Text とは

まずは多くの人を惹きつける Sublime Text の特徴や魅力的な機能の数々をまとめて紹介します。

Sublime Text 図1 は、オーストラリアの Sublime HQ Pty Ltd が 2008 年にリリースしたシェアウェアのテキストエディタです。強力な編集機能、柔軟な拡張機能などの特徴から、海外では非常に高い人気を誇っています。国内でも徐々に人気が高まっており、ネットを検索すればさまざまな情報を確認することができるでしょう。



図1 Sublime Text

2014年2月現在の最新バージョンは2ですが、すでにバージョン3のパブリックベータ版が公開されており、そう遠くない時期に3の正式版が公開される予定です。

## 海外での高評価

海外サイト Tutorialzine の記事「Which is the Best Code Editor?」では、13個のエディタを、使いやすさ・機能・拡張性・価格などから比較・評価しています。その中で Sublime Text は、13個中最高評価の星4.6を獲得しています 図2。

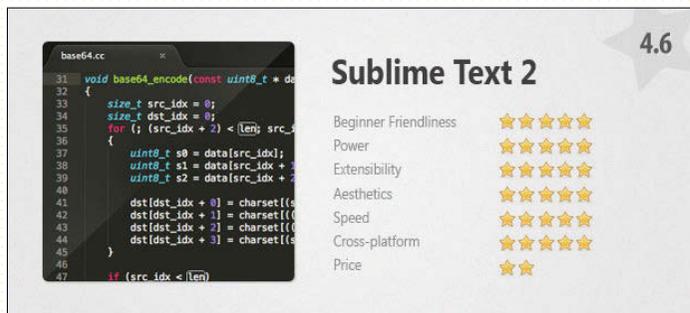


図2 Which is the Best Code Editor? | Tutorialzine (<http://tutorialzine.com/2012/07/battle-of-the-tools-which-is-the-best-code-editor/>)  
価格以外はすべて星5の評価をされている

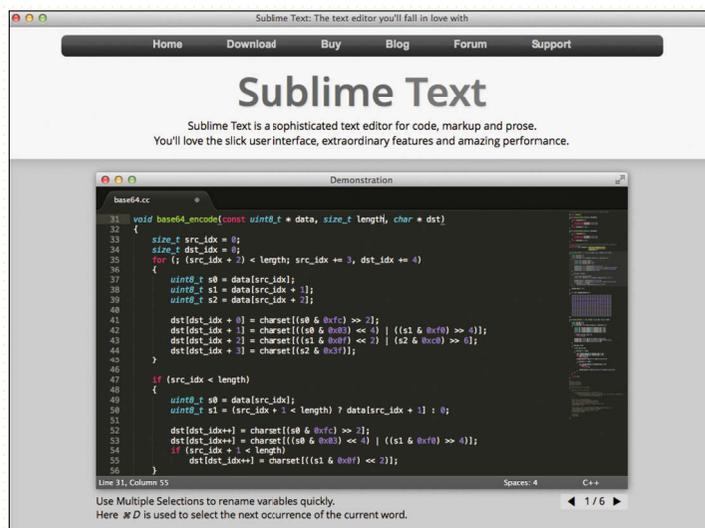
国内でもSublime Textを称賛する記事が数多くあり、徐々にユーザーを増やしています。

## Sublime Text のここがすごい

Sublime Text公式ホームページのタイトル  には、開発者ジョン・スキナー氏の次のようなメッセージが載せられています。

### 「The text editor you'll fall in love with」(恋に落ちるテキストエディタ)

開発サイドの強い自信を感じさせる言葉ですが、そのメッセージどおり、恋に落ちるといっても過言ではないすごい機能をたくさんもっています。その魅力を最初に紹介しましょう。



 3 Sublime Text: The text editor you'll fall in love with (<http://www.sublimetext.com/>)

## 強力な編集機能

Sublime Textの1つ目の魅力は、エディタの本質である編集機能が強力なことです。特にWeb制作やプログラミングで欠かせないコード編集に役立つ機能が、標準で数多く用意されています。

## ヒント\*1

インクリメンタル検索とは、キーワードを入力している途中で検索を行い、リアルタイムで検索結果を表示してくれる機能です。

- 入力を的確に補助するコード補完はもちろんのこと、短縮したワードで定型のコードを展開してくれる「スニペット」機能でコード入力を高速化できる
- 複数箇所をリアルタイムで編集できる「Multiple Selections」は、特定のワードを一括で修正したり、複数行をまとめて編集したりできる
- 「Goto Anything」はファイルおよびプロジェクトをインクリメンタル検索<sup>\*1</sup>し、すぐに指定の場所にジャンプできる
- 右側に表示される「ミニマップ」でコード全体を把握でき、長大なコードでもすばやく目的の行まで移動できる
- 「Vintageモード」というVimのようなキーバインドで操作できる機能もあるので、CUI操作に慣れた方にもおすすめ

主要なテキスト編集機能を紹介した動画が、公式サイトトップページに掲載されています [図3](#)。ぜひ一度見てみてください。

## 柔軟なカスタマイズ性

2つ目の魅力は、非常に強力で柔軟なカスタマイズ性です。「パッケージ」と呼ばれるプラグインを追加することで、機能を拡張することができます。

パッケージはSublime Textの機能を非常に強力にしてくれます。言語追加やスニペットなどの編集機能はもちろんのこと、デバッガやFTPクライアントなどもあり、インストールしていくとエディタの枠を超えてIDEに近い機能まで備えることができます。

パッケージは有償・無償を合わせて2,000個以上<sup>\*2</sup>あり、今後もどんどん増えていく見込みです。初期状態ではパッケージを導入する手順が少々手間なのですが、「Package Control」という管理ツールが提供されており、これをインストールしておけば、簡単にパッケージの追加や管理ができるようになります。

また、環境設定でインターフェイスや挙動を細かく設定できるほか、テーマ機能やカラースキームもあり、見た目やカラーリングのカスタマイズも可能です。スニペットやショートカットも簡単にカスタマイズでき、これらの柔軟な拡張性により、自分に合ったカスタマイズが自由自在にできるのも人気の理由です。

## 試用は無期限・機能無制限

Sublime Textはシェアウェアで、1ユーザー分のライセンスが70USドル<sup>\*3</sup>で販売されています。ただし、ライセンスを購入しなくても無期限で試用できます。しかも、ファイルを保存する際にとどき購入を促すダイアログボックスが

## ヒント\*2

執筆時点(2014年2月)のPackage Controlサイトへの登録数です。

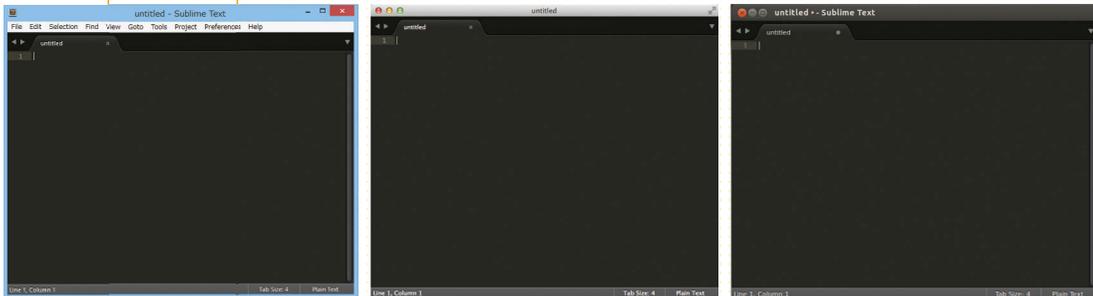
詳しくは → P.117

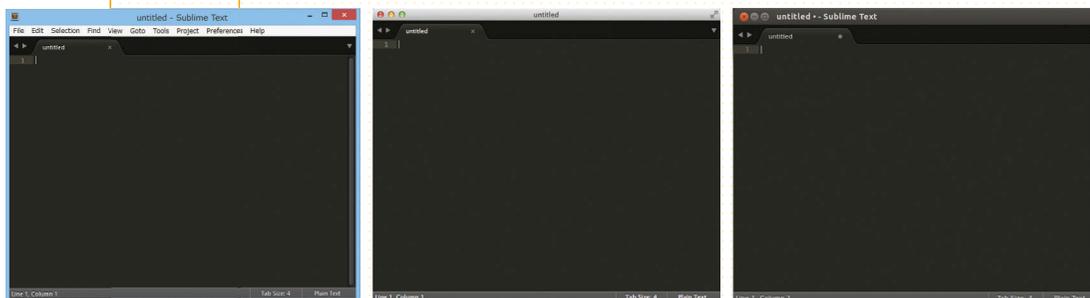
## ヒント\*3

執筆時点(2014年2月)の価格です。

表示されるだけで、機能制限などはありません。気に入ったら購入してくれば  
いいという太っ腹な仕様なので、これもまた1つの自信の表れといえるかもしれ  
ません。

## クロスプラットフォーム

Windows、Mac、Linuxのクロスプラットフォームに対応しています。インター  
フェイスやショートカットもほとんど同じなので、複数の環境を使っている人  
でも操作に迷うことはないでしょう  。



 4 左からWindows、Mac、Linux版のSublime Text

なお、本書は主にWindowsとMacのユーザーを対象として執筆しています。

## 豊富な対応言語

Sublime Textは標準で数多くの言語に対応しています  5。これらの言語は  
標準でコードがシンタックスハイライト(色分け)されます。言語によってはコード  
補完にも対応しています。

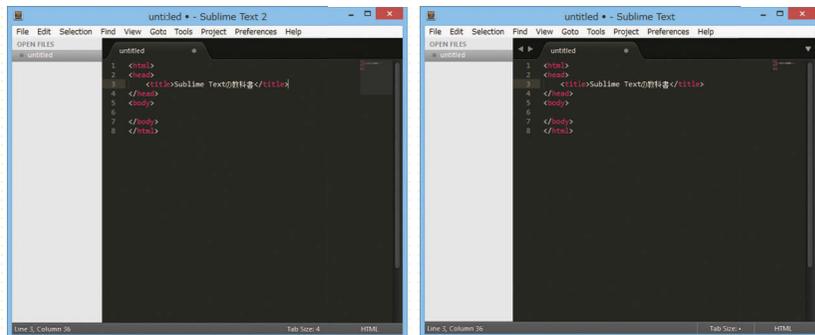
```
ActionScript, AppleScript, ASP, batch files, C, C++, C#, Clojure, CSS, D, Diff,
Erlang, Go, Graphviz (DOT), Groovy, Haskell, HTML, Java, JSP, JavaScript,
JSON, LaTeX, Lisp, Lua, Makefiles, Markdown, MATLAB, Objective-C,
OCaml, Perl, PHP, Python, R, Rails, Regular Expressions, reStructuredText,
Ruby, Scala, shell scripts (Bash), SQL, Tcl, Textile, XML, XSL, YAML
```

 5 標準で対応している言語

上記以外の言語もパッケージをインストールすることで、追加できます。新しい  
言語やメタ言語、フレームワーク拡張言語など、さまざまな言語対応のパッケージ  
が開発・公開されており、対応していない言語はないといっても過言ではあり  
ません。

## バージョン2と3の違い

執筆時点ではバージョン2の正式版に加えてバージョン3のパブリックベータ版が公開されており、2種類のSublime Textが併存しています。バージョン3へのメジャーアップデートでは、さまざまな新機能の追加、安定性・パフォーマンスの向上などが行われていますが、インターフェイスやアイコンなど見た目の違いはほとんどありません **図6**。



主要な機能はバージョン2からすべて引き継がれているので、共通部分の操作はまったく同じです。違和感なく3へ移行できるでしょう。バージョン3は実用可能なレベルにあるとはいえベータ版なのでバグが存在する可能性があります。Sublime Text 2のサポートを終了する人気の高いパッケージも増えてきているので、機能をフルで使いたい場合は現時点でもバージョン3を使うことをおすすめします。

2と3は別の場所にインストールされるので、別アプリケーションとして同時に起動することが可能です。2から3へ乗り換える場合は、2も残しておいて様子を見ながら移行するといいでしょう。

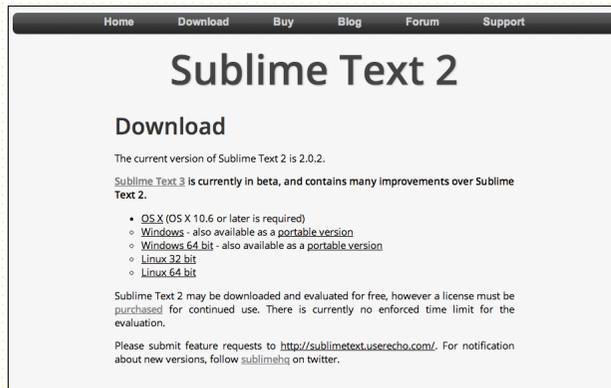
# Sublime Textのダウンロード とインストール

さっそくSublime Textインストールしてみましょう！ここではライセンスの購入や登録方法も解説します。

## Sublime Text をダウンロードする

Sublime Textをダウンロードする場合は、公式ページのナビゲーションから「Download」ページを表示し、目的のOSのリンクをクリックします [図 7](#)。

執筆時点でナビゲーションから直接アクセスできるのは、バージョン2のダウンロードページです。バージョン3をダウンロードしたい場合は、同ページ内の「Sublime Text 3 is currently in beta,」のリンクからダウンロードページに移動してください。正式に3がリリースされた際には、ナビゲーションのリンク先はバージョン3になるでしょう。



**図 7** Sublime Text - Download (<https://www.sublimetext.com/2>)  
使用しているOSを選択し、インストーラーをダウンロード

# Sublime Text のインストールは簡単

## ヒント\*4

ポータブル版はUSBメモリに入れてそのまま利用できるバージョンです。任意のPCに接続すればすぐに普段の環境で作業できるので、移動が多い人におすすめです。機能面ではインストール版とほとんど変わりません。なお、本書はインストール版で検証・執筆しています。

インストール方法は一般的なアプリケーションと変わりません。Macはdmgファイルを開き[アプリケーション]フォルダにドラッグします。Windowsはインストーラーをダブルクリックで起動してインストールします。なお、Windowsはインストール不要のポータブル版も用意されています\*4。Linuxは展開してインストールする方法のほか、PPAを使ってインストールすることもできます。

## ライセンスを購入する

Sublime Textが気に入ってライセンスを購入したい場合は、公式サイト「Buy」ページからPayPalまたはクレジットカード決済で購入することができます 図8。

図8 Sublime Text - Buy (https://www.sublimetext.com/buy)

## ヒント\*5

執筆時点(2014年2月)の価格です。

## ヒント\*6

ビジネスライセンスで会社のマシン用に購入したものは、個人のマシンにインストールできません。

価格は1ユーザー70USドル\*5で、バージョン3へのアップデートライセンスも含まれています。ライセンスには個人向けと企業向けのビジネスライセンスがあり、ビジネスライセンスではライセンス数に応じた値引きも用意されています\*6。ただし、教育機関へのアカデミック版は提供されていないようです。

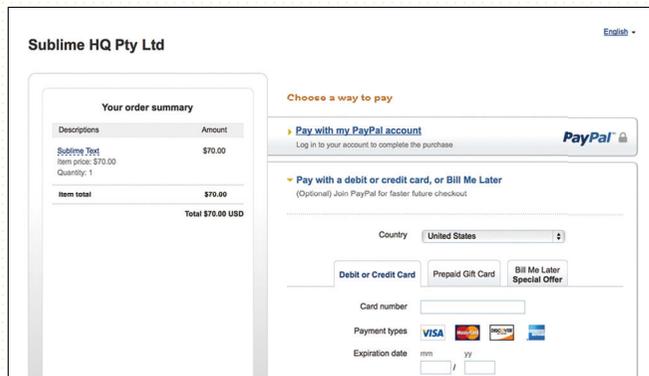


図 8 PayPalの画面に切り替わり、クレジットカードで決済できる。すでにPayPalアカウントを持っている人は上の「Pay with my PayPal account」を選ぶ

購入手続きが終わり次第、メールにてライセンスキー<sup>\*7</sup>が発行されるので、Sublime Textの[Help]メニューから[Enter License]を選択して、表示されるウィンドウに、発行されたライセンスキーをコピー＆ペーストします 図 9。

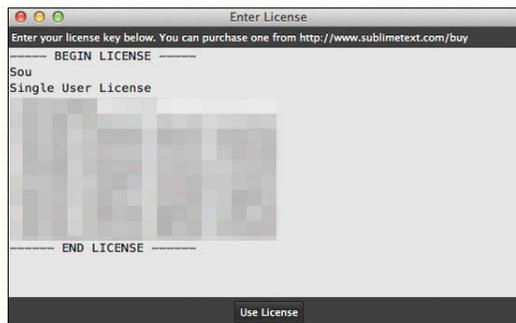


図 9 ライセンスをコピー＆ペーストする

### ヒント\*7

Sublime Textはユーザーライセンス方式なので、同じユーザーであれば複数のマシンにインストールすることが認められています。

### ヒント\*8

パッケージのリポジトリ登録について。

詳しくは → P.124

### ヒント\*9

アップデート時はインターネットに接続されている必要があります。

## 最新版へのアップデートは自動で行われる

Sublime Text本体およびリポジトリに登録されているパッケージ<sup>\*8</sup>は、自動的にアップデートされます<sup>\*9</sup>。

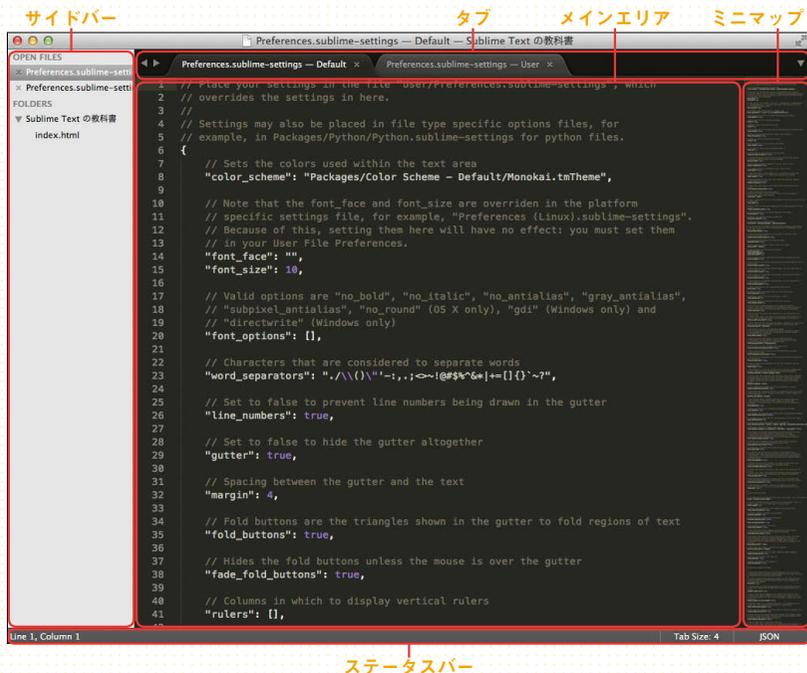
## 1 - 3

## Sublime Text の画面解説

ここでは Sublime Text の画面構成について解説します。メニューなどはすべて英語ですが、シンプルでわかりやすいインターフェイスとなっているので、迷わず直感的に使うことができるでしょう。

## 画面各部の名称

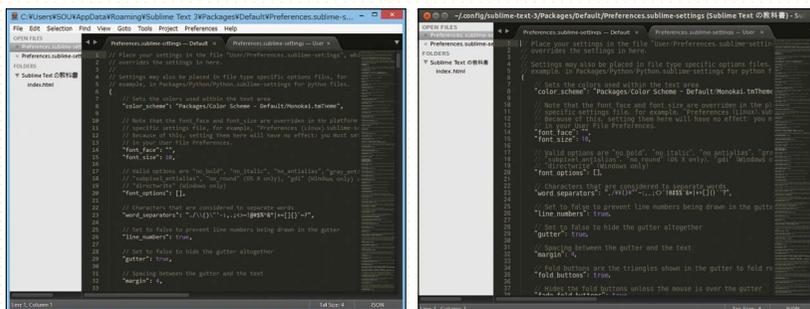
Sublime Text のインターフェイスは次のように構成されています [図 10](#)。



[図 10](#) Sublime Text の画面構成 (Mac 版)

画面構成は大きく分けてメインエリア、サイドバー、ミニマップ、タブ、ステータスバーで構成されています。それぞれメニュー操作で表示／非表示を切り替えることができます。

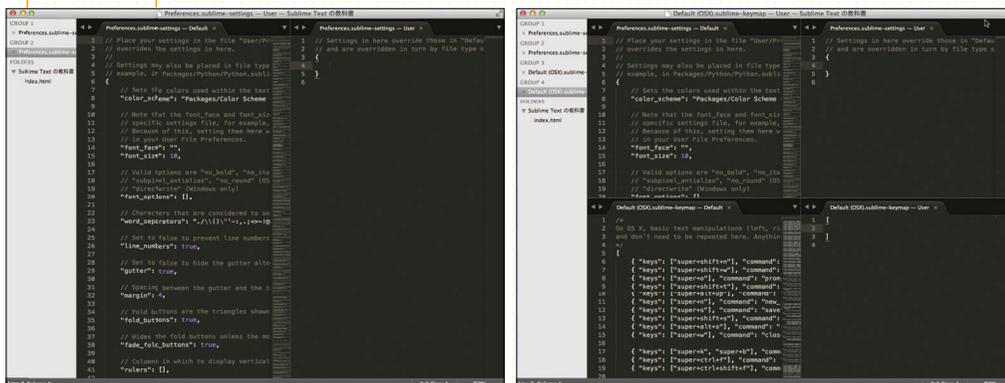
OSによってメニューや閉じるボタンなどの配置は異なりますが、Sublime Text固有の画面構成は同じです [図11](#)。



**図11** Windows版(左)とLinux版(右)

## 分割可能なメインエリア

テキストを編集するメインエリアは分割することができます。HTMLとCSSなどを、同時に見比べながら編集したい場合などに便利です [図12](#)。横4列まで、縦3行まで、または2列×2行の4グリッドに画面を分割することができます。分割した画面を「グループ」と呼び、それぞれにタブ付きで複数のファイルを開くことができます。



**図12** 「Columns: 2」表示(左)と「Grid: 4」表示(右)

画面を分割するには、次の操作を行います。

- メニュー操作：[View] → [Layout] → [Single] ~ [Grid: 4]
- ショートカットキー：(Mac) 横分割 `(option) + (command) + 1 ~ 4`  
 縦分割 `(option) + (shift) + (command) + 1 or 2`  
 (Windows) `(alt) + (shift) + 1 ~ 9` (6, 7を除く)

なお、Sublime Text 3 では、[View] メニューの [Layout] → [Groups] から、より詳細に画面分割をすることができます。

## サイドバー

現在開いているファイルや、登録したフォルダ(プロジェクト)を表示します。表示するファイル切り替えや、開く／閉じるなどの操作ができます。

サイドバー自体の表示／非表示は次の操作で切り替えます。

- メニュー操作：

[View] → [Side Bar] → [Hide Side Bar] ⇔ [Show Side Bar]

- ショートカットキー：(Mac) `command + K`, `command + B`<sup>\*10</sup>  
(Windows) `Ctrl + K`, `Ctrl + B`

### ヒント\*10

カンマで区切られたショートカットキーは、順番に押すことを意味します。

## ミニマップ

コードの全体図を縮小表示したものです。マップ上をクリックすると、その位置にスクロールします。次の操作で表示／非表示を切り替えます。

- メニュー操作：[View] → [Hide Minimap] ⇔ [Show Minimap]

## タブ

1画面内で複数のファイルをタブ表示できます。ブラウザのタブと同じと思えばわかりやすいでしょう。タブはドラッグして順番を入れ替えることができ、ウィンドウの外までドラッグすると別ウィンドウとなります。また、タブ領域中のタブがないところでダブルクリックすると新規ファイルを作成できます。

次の操作でタブの表示／非表示を切り替えることができます。

- メニュー操作：[View] → [Hide Tabs] ⇔ [Show Tabs]

## ステータスバー

ステータスバーの左側には、現在カーソルがある行数や文字位置が表示されています。テキストを選択した状態にすると文字数と行数をカウントします。右部の「Tab Size: 4」と表示されている部分は、クリックするとタブサイズや、タブ

## ヒント\*11

シンタックスモードとは特定の言語に合わせた設定のことです。

詳しくは → P.90

とスペースを変換するメニューなどが選べます。「JSON」などの言語名が表示されている部分は、現在のシンタックスモードを表示しています\*11。クリックすると登録されているシンタックスモードが選択できます。



次の操作でステータスバーの表示／非表示を切り替えることができます。

- メニュー操作：[View] → [Hide Status Bar] ⇄ [Show Status Bar]

## 集中して作業できる全画面表示モード

Sublime Textには、フルスクリーンと集中モードという2種類の全画面表示モードがあります。

### フルスクリーン

フルスクリーンは画面いっぱいにSublime Textを表示します。最大化との違いは、タスクバーやウィンドウの枠がなくなり、完全にSublime Textの画像だけになる点です。Macでは、Mission Controlの1画面となります。

- メニュー操作：[View] → [Enter Full Screen] ⇄ [Exit Full Screen]
- ショートカットキー：(Mac) **control** + **command** + **F**、(Windows) **F11**

### 集中モード

集中モードでは、サイドバーやミニマップなどもなくなり、メインエリアだけが全画面表示されます\*12。Macでは、Mission Controlの1画面となります。

- メニュー操作：  
[View] → [Enter Distraction Free Mode] ⇄ [Exit Distraction Free Mode]
- ショートカットキー：(Mac) **control** + **shift** + **command** + **F**  
(Windows) **Shift** + **F11**

## ヒント\*12

集中モードで表示する内容は、環境設定で変更可能です。

詳しくは → P.35



Line	<ul style="list-style-type: none"> <li>Indent (インデント)</li> <li>Unindent (インデントの削除)</li> <li>Reindent (再インデント)</li> <li>Swap Line Up (上の行と入れ替える)</li> <li>Swap Line Down (下の行と入れ替える)</li> <li>Duplicate Line (行の複製)</li> <li>Delete Line (行の削除)</li> <li>Join Lines (行の結合 (改行を削除))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ P.77</li> <li>→ P.61</li> </ul>
Comment	<ul style="list-style-type: none"> <li>Toggle Comment (コメントを挿入)</li> <li>Toggle Block Comment (ブロックコメントを挿入)</li> </ul>	→ P.79
Text	<ul style="list-style-type: none"> <li>Insert Line Before (前 (上) に行を挿入)</li> <li>Insert Line After (後 (下) に行を挿入)</li> <li>Delete Word Forward (カーソルより前の単語を削除)</li> <li>Delete Word Backward (カーソルより後の単語を削除)</li> <li>Delete Line (行の削除)</li> <li>Delete to End (カーソルより後の行を削除)</li> <li>Delete to Beginning (カーソルより前の行を削除)</li> <li>Transpose (文字の入れ替え)</li> </ul>	→ P.61
Tag	<ul style="list-style-type: none"> <li>Close Tag (タグを閉じる)</li> <li>Expand Selection to Tag (タグ内を選択)</li> <li>Wrap Selection With Tag (タグで囲む)</li> </ul>	→ P.104
Mark	<ul style="list-style-type: none"> <li>Set Mark (マークをセット)</li> <li>Select to Mark (マークからカーソルを選択)</li> <li>Delete to Mark (マークからカーソルを削除)</li> <li>Swap with Mark (マークを入れ替え)</li> <li>Clear Mark (マークを削除)</li> <li>Yank (ヤंक)</li> </ul>	
Code Folding	<ul style="list-style-type: none"> <li>Fold (コードを折りたたむ)</li> <li>Unfold (折りたたみ解除)</li> <li>Unfold All (すべての折りたたみ解除)</li> <li>Fold All (すべて折りたたむ)</li> <li>Fold Level 2 ~ 9 (階層で折りたたみ)</li> <li>Fold Tag Attributes (タグの属性を折りたたむ)</li> </ul>	
Convert Case	<ul style="list-style-type: none"> <li>Title Case (頭文字を大文字)</li> <li>Upper Case (大文字)</li> <li>Lower Case (小文字)</li> <li>Swap Case (大文字・小文字を入れ替える)</li> </ul>	
Wrap	<ul style="list-style-type: none"> <li>Wrap Paragraph at Ruler (ルーラーで折り返し Wrap)</li> <li>Paragraph at 70 ~ 120 (指定した文字数で折り返し)</li> </ul>	
Show Completions (コード補完を表示)	→ P.90	
Sort Lines (行をソートする)	→ P.114	
Sort Lines (Case Sensitive) (行をソートする (大文字・小文字を区別))		
Permute Lines	<ul style="list-style-type: none"> <li>Reverse (行を反転)</li> <li>Unique (重複した行を削除)</li> <li>Shuffle (行をシャッフル)</li> </ul>	
Permute Selections	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sort (選択範囲をソートする)</li> <li>Sort (Case Sensitive) (選択範囲をソートする (大文字・小文字を区別))</li> <li>Reverse (選択範囲を反転)</li> <li>Unique (重複した選択を削除)</li> <li>Shuffle (選択範囲をシャッフル)</li> </ul>	
Special Characters (特殊文字 (Mac のみ))		



### ヒント\*17

「Show Menu / Hide Menu」はWindowsのみの機能です。

### ヒント\*18

「Groups」はバージョン3からの機能です。

View	
Side Bar	<ul style="list-style-type: none"> <li>Show Side Bar / Hide Side Bar (サイドバーの表示・非表示)</li> <li>Show Open Files / Hide Open Files (開いているファイルの表示・非表示)</li> </ul>
Show Minimap / Hide Minimap (ミニマップの表示・非表示)	} → P.19
Show Tabs / Hide Tabs (タブの表示・非表示)	
Show Status Bar / Hide Status Bar (ステータスバーの表示・非表示)	
Show Menu / Hide Menu (メニューの表示・非表示) *17	
Show Console / Hide Console (コンソールの表示・非表示)	} → P.21
Enter Full Screen / Exit Full Screen (フルスクリーンのオン・オフ)	
Enter Distraction Free Mode / Exit Distraction Free Mode (集中モードのオン・オフ)	
Layout	<ul style="list-style-type: none"> <li>Single (単一画面)</li> <li>Columns: 2 (横2分割画面)</li> <li>Columns: 3 (横3分割画面)</li> <li>Columns: 4 (横4分割画面)</li> <li>Rows: 2 (縦2分割画面)</li> <li>Rows: 3 (縦3分割画面)</li> <li>Grid: 4 (縦横4分割画面)</li> </ul>
Groups *18	<ul style="list-style-type: none"> <li>Move File to New Group (新しいグループへ移動) → P.64</li> <li>New Group (新規グループ)</li> <li>Close Group (グループを閉じる)</li> <li>Max Columns: 1 ~ (横カラムの上限を指定)</li> </ul>
Focus Group	<ul style="list-style-type: none"> <li>Next (フォーカスを次のグループに移動)</li> <li>Previous (フォーカスを前のグループに移動)</li> <li>Group 1 ~ (フォーカスを指定したグループへ移動)</li> </ul>
Move File To Group	<ul style="list-style-type: none"> <li>Next (ファイルを次のグループに移動)</li> <li>Previous (ファイルを前のグループに移動)</li> <li>Group 1 ~ (ファイルを指定したグループへ移動)</li> </ul>
Syntax (シンタックスモードの指定)	→ P.90
Indentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>Indent Using Spaces (インデントにスペースを使用する)</li> <li>Tab Width: 1 ~ (タブサイズの指定)</li> <li>Guess Settings From Buffer (インデントを自動設定)</li> <li>Convert Indentation to Spaces (インデントをスペースに変換) → P.78</li> <li>Convert Indentation to Tabs (インデントをタブに変換)</li> </ul>
Line Endings (改行コード)	
Word Wrap (行の折り返し)	
Word Wrap Column (折り返しの位置指定)	
Ruler (ルーラー)	
Spell Check (スペルチェック)	
Next Misspelling (次のミススペルへ移動)	
Prev Misspelling (前のミススペルへ移動)	
Dictionary (スペルチェックの辞書の指定)	





## ① - 5

# Sublime Text の環境設定

Sublime Text は、インターフェイスやアプリケーションの挙動、ショートカットの変更・追加など、非常に細かく設定することができます。ここでは、Sublime Text をより自分に馴染ませるために必須となる、環境設定の方法を解説します。

## 環境設定と設定ファイル

環境設定は Windows 版では [Preferences] メニューから、Mac 版では [Sublime Text] メニューの [Preferences] から設定します。

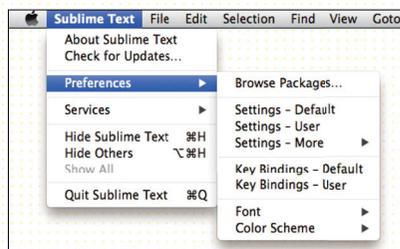


図 14 Mac 版の [Preferences] メニュー

[Preferences] メニューでは、以下の設定が行えます。それぞれの項目を選択すると設定ファイルが開かれます。

- Browse Packages …… パッケージフォルダを開く
- Settings - Default …… デフォルト環境設定
- Settings - User …… ユーザー環境設定
- Settings - More …… 詳細設定 (言語別設定、集中モード設定)
- Key Bindings - Default …… デフォルトショートカットキー設定
- Key Bindings - User …… ユーザーショートカットキー設定
- Font …… フォントサイズ設定
- Color Scheme …… カラースキーム設定

## 設定ファイルについて

Sublime Text では環境設定を、GUIのパネルからマウス操作で設定するのではなく、設定ファイルのテキストを編集することで設定します。

テキスト編集での設定なので、最初は記法のルールなどで戸惑うかもしれませんが、慣れてしまうと非常にシンプルでわかりやすい設定方法です。また、テキストデータで設定を管理しているため、別マシンへの環境移行や、環境の共有などを簡単にできる利点もあります。

## 設定ファイルの記述ルール

前述のとおり、設定ファイルはテキストデータで書かれています。JSON形式<sup>\*22</sup>で書かれており、次のようなルールで記述する必要があります。

- 一行コメントは//、ブロックコメントは/\* \*/
- 連続で指定する場合は、(カンマ)で区切り指定する
- 値が複数ある場合は[] (ブラケット)で囲い、(カンマ)区切りで指定する
- 配列の最後の値にカンマは書かない

連想配列で指定しているので、(カンマ)で区切る必要がありますが、最後の値はカンマは不要です。また、値が複数ある場合は2次元配列にする必要があります、[] (ブラケット)で囲って、(カンマ)で区切り指定します。この場合も最後の値はカンマは不要です<sup>\*23</sup>。

- **設定ファイルのルールセット**

設定ファイルのルールセットの例を見てみましょう。以下はフォントサイズを設定する記述です。

```
{
  // "設定": "値"
  "font_size": 10
}
```

設定名と値をセットで書き、設定名と値の間は:(コロン)で区切ります。値が「true」か「false」、または数字の場合はそのまま記述します。それ以外のワードで指定する場合は"" (ダブルクォーテーション)で囲みましょう。

### ヒント\*22

JSON形式はJavaScriptの記法をベースにしたデータフォーマットです。主にWebサービスでデータを受け渡したり記録したりするために使われています。

### ヒント\*23

Sublime Text 3から最後にカンマがあってもエラーにならないようになりました。

複数の設定を書く場合は、,(カンマ)で区切って指定していきます。以下はカ  
ラースキームとフォントサイズを設定する記述です。

```
{
  "color_scheme": "Packages/Color Scheme - Default/Monokai.
tmTheme",
  "font_size": 10
}
```

繰り返しますが、最後の行はカンマが不要になるのでそこだけ注意してくださ  
い。この設定ファイルを保存すると即座に変更が反映されます。すぐに反映され  
ない場合はSublime Textを再起動してみましょう。何か記述に問題がある場合  
は、保存するとエラーメッセージが表示されます(図15)。

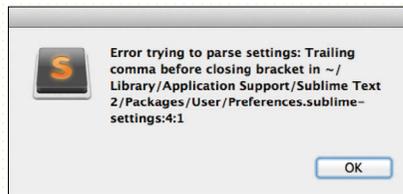


図15 記述ミスがある場合、保存すると即座にエラーメッセージが表示される

## 環境設定を変更する

それでは実際に環境設定を変更してみましょう。Sublime Textの環境設定を  
行うには、[Preferences]→[Setting - User]を選択します。ショートカットキー  
の`command`+`,`(Windowsでは不可)を押すか、もしくはコマンドパレット\*24  
から開くこともできます(図16)。

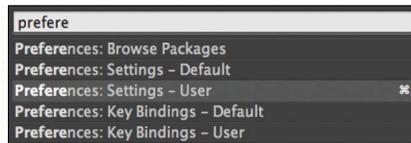


図16 コマンドパレットから開く

### ヒント\*24

コマンドパレットを表示する  
ショートカットキーは`command`  
+`shift`+`P`(Windowsでは  
`Ctrl`+`Shift`+`P`)です。

選択して開かれる「Preferences.sublime-settings」ファイルがユーザー環境設定ファイルです。ここに設定を記述していきます 図17。

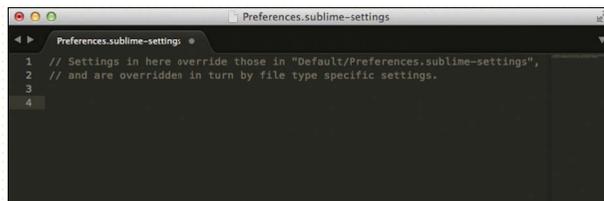


図17 ユーザー環境設定ファイル

ただ、最初はコメントしか書かれていないので、何を記述したらいいかわからないと思います。[Preferences] → [Setting] → [Default] を選択すると、デフォルトの環境設定ファイル\*25を開くことができます 図18。

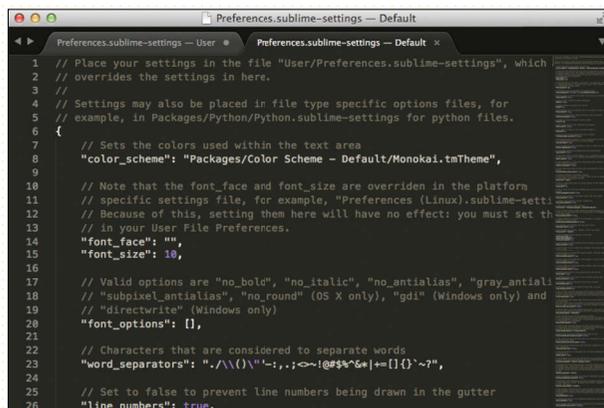


図18 デフォルト環境設定ファイル

### ヒント\*25

環境設定の項目一覧は付録で紹介しています。

詳しくは → P.242

### ヒント\*26

Sublime Text 3からはデフォルト設定ファイルはロックされています。

ここから目的の設定を探し、ユーザー環境設定ファイルにコピー＆ペーストして設定を上書きしましょう。デフォルト環境設定ファイルはアップデートなどで初期化される可能性があるため、直接書き換えないほうがいいでしょう\*26。ユーザー環境設定は、デフォルト環境設定よりも優先されます。

まずは、フォントサイズとカラースキームを変更して、設定方法を覚えましょう。

## フォントサイズを変更する

環境設定は基本的にテキストベースで環境設定ファイルに記述していきますが、例外があります。それがフォントサイズとカラースキームの指定です。これらはメニューから選択して変更することができます。

フォントサイズを大きくしてみましょう。メニューから [Preferences] → [Font] → [Larger] を選択します 図19。

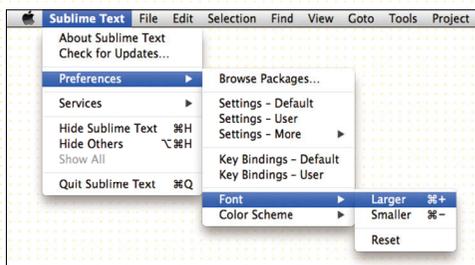


図19 メニュー操作でフォントサイズを調整

フォントサイズは即座に反映されます。ユーザー環境設定ファイルを開いてみましょう。フォントサイズの設定ルールが追記されています 図20。

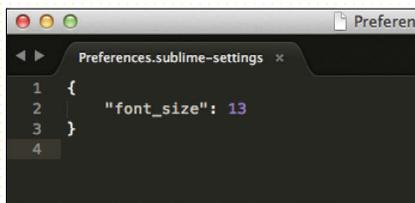


図20 フォントサイズが記述されている

さらにメニュー操作で拡大／縮小すれば、環境設定ファイルの数値がリアルタイムで変わっていきます。もちろん環境設定ファイル側に直接数値を入力しても、サイズを変更することができます。

## カースキームを変更する

続いて、カースキームを変更してみましょう。カースキームとは背景色や文字色などの色設定がまとめられたものです。Sublime Textの初期設定は黒背景ですが、黒い画面が苦手という人は自分にあったカースキームに切り替えることをおすすめします。

カースキームは [Preferences] → [Color Scheme] から選択できます。

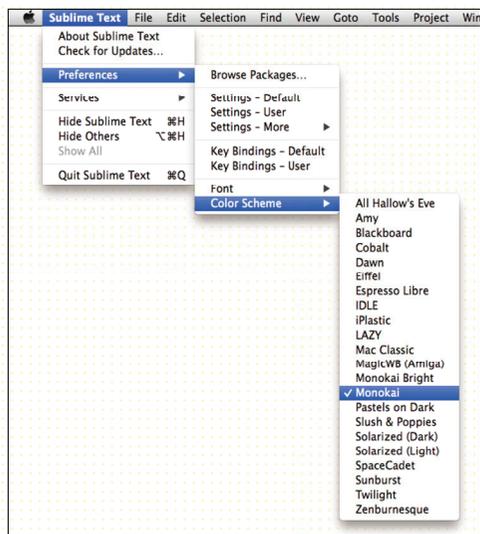


図21 [Preferences] からカラースキームを選択

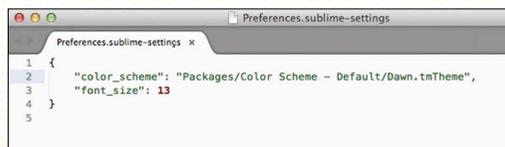


図21 カラースキーム「Dawn」を選択した例

環境設定ファイルを開いてみると、カラースキームの設定が追記されていることがわかります。デフォルトに戻したい場合はメニューから「Monokai」を選択するか、もしくは環境設定ファイルから `color_scheme` の行を削除してファイルを保存します。

## そのほかの環境設定を変更する

フォントとカラースキーム以外の設定は、デフォルト環境設定ファイルからコピーして、設定を上書きしましょう。例として、フォントを変えてみます。

フォントは、`font_face` にフォント名を記述することで変更できます。デフォルト環境設定ファイルの14行目あたりに書かれているので、行ごとコピーしましょう。

```
"font_face": "",
```

コピーしたら、ユーザー環境設定ファイルの最後の行に設定を追加してみましょう 図22。

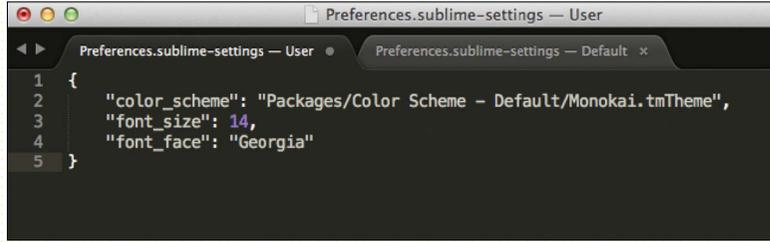


図22 font\_faceにGeorgiaを指定

例ですので、わかりやすくセリフ体の「Georgia」を指定してみます。しつこいようですが、(カンマ)に注意しましょう。問題なさそうであれば保存します。保存すると、フォントが「Georgia」になりました 図23。

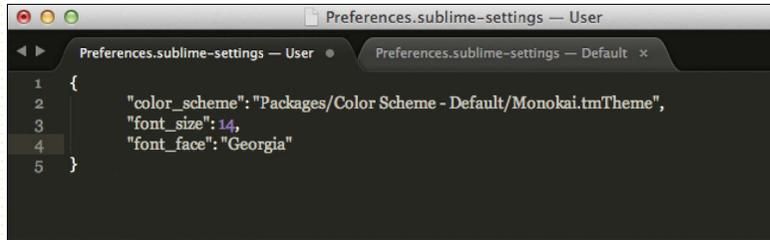


図23 フォントがGeorgiaになったのがわかる

Sublime Textはコード編集に使うことが多いですから、見た目だけでフォントを選ばずに、Adobeの「Source Code Pro<sup>\*27</sup>」などのコーディングに使いやすいものを使うことをおすすめします。

このように、環境設定はデフォルト環境設定ファイルからユーザー環境設定ファイルに、設定を上書きして指定することが基本となります。

### ヒント\*27

Source Code ProはSourceForge (<http://sourceforge.net/projects/sourcecodepro.adobe/files/>) で無料公開されています。

## 言語ごとに環境設定を行う

同じコードでも、HTMLやCSSのコードを編集するときと、JavaScriptやPythonを編集するときでは、使いやすい設定が異なるかもしれません。Sublime Textでは言語(シンタックス)ごとに環境設定を行うことができます。

該当の言語のファイルを開いている状態で、[Preferences]メニューから[Setting - More] → [Syntax Specific - User]を選択すると、言語ごとの設定ファイル「拡張子.sublime-settings」ファイルが作成されます 図24。

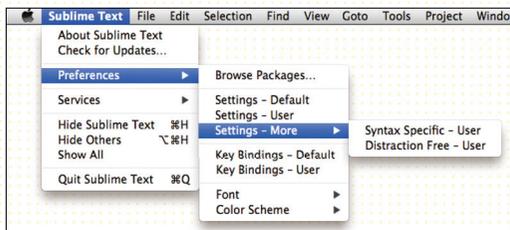


図24 言語ごとの設定ファイルを作成する

後はそのファイルを編集して、その言語に合わせた設定を記述して保存します。これについては2-2で詳しく解説しているので参照してください<sup>\*28</sup>。

### ヒント<sup>\*28</sup>

コーディングルールの対応について。

詳しくは → P.70

### ヒント<sup>\*29</sup>

集中モードについて。

詳しくは → P.21

## 集中モードの設定を変更する

カラムだけを全画面表示する集中モード<sup>\*29</sup>の設定も変更することができます。[Preferences] メニューから [Setting - More] → [Distraction Free - User] を選択すると、集中モードの設定ファイル「Distraction Free.sublime-settings」ファイルが開きます。集中モードのデフォルト設定は以下となっています。

```
{
  "line_numbers": false, // 行番号の表示
  "gutter": false,      // コードの左側のスペース
  "draw_centered": true, // 中央寄せ
  "wrap_width": 80,     // 横幅
  "word_wrap": true,    // 行の折り返し
  "scroll_past_end": true // 最終行からのスクロール
}
```

必要な設定を「Distraction Free.sublime-settings」ファイルに上書きしましょう。

## ショートカットキーを変更する

ショートカットキー（キーバインド）の変更や追加も Preferences メニューから行います。[Preferences] メニューから [Key Bindings - User] を選択するか、もしくはコマンドパレットから開くこともできます<sup>図25</sup>。

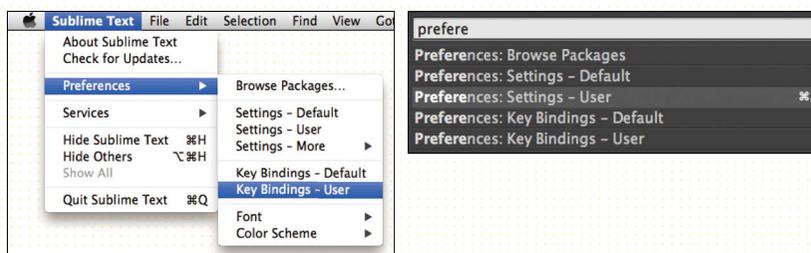


図25 メニューまたはコマンドパレットから設定を開く

「Default (OS名).sublime-keymap」ファイルが開きます。OSによってショートカットキーが異なるので、OSごとに別ファイルで管理されています。

- (Mac) 「Default (OSX).sublime-keymap」ファイル
- (Windows) 「Default (Windows).sublime-keymap」ファイル

ショートカットキーを変更する場合は、環境設定と同様にデフォルト設定からショートカットキー設定をコピーして、ユーザー設定で設定を上書きしましょう。デフォルトのショートカットキー設定ファイルは [Preferences] → [Key Bindings - Default] を選択するか、もしくはコマンドパレットから開くこともできます。

ショートカット設定は以下のように指定します。

```
[
  // { "keys": ["ショートカット"], "command": "コマンド名" },
  { "keys": ["super+shift+n"], "command": "new_window" }
]
```

### ヒント\*30

super は Mac の `command` のことを指しています。

上記の例では「`command`+`shift`+`N`」<sup>\*30</sup>を押すと、`new_window` コマンドを実行する。」と設定されています。コマンド名から「新規ウィンドウ」とわかりますね。  
"keys" の値の "ショートカット" の内容を書き換えればショートカットキーが変更できます。

「新規ウィンドウ」のショートカットキーを変更してみましょう。ユーザーショートカット設定ファイルに、デフォルトから「新規ウィンドウ」の1行をコピーします。そして、"ショートカット" を変更してみましょう。

## ヒント\*31

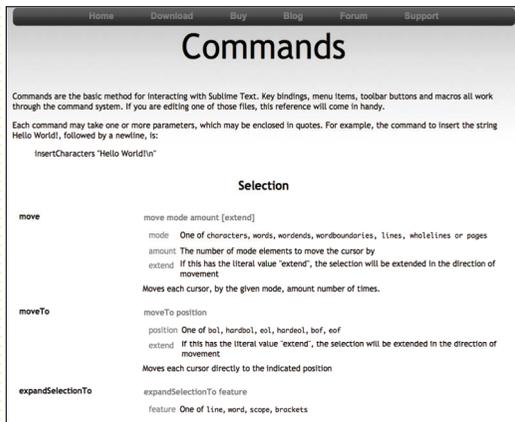
Macでは`alt`と`option`は同じキーです。

```
[  
  // 新規ウィンドウのショートカットを変更した例  
  { "keys": ["ctrl+alt+f2"], "command": "new_window" }  
]
```

例なので、極端ですが`control+alt+F2`<sup>\*31</sup>に割り当ててみました。設定ファイルを保存すると割り当てが反映され、`control+alt+F2`で新規ウィンドウが開けるようになります。

なお、ユーザー設定を変更しても、デフォルトの`command+shift+N`を押して新規ウィンドウを開くことができます。デフォルト設定とユーザー設定で、ショートカットキーがバッティングした場合のみ、ユーザー設定が優先されます。

コマンド名は、あらかじめ決まっているので公式ドキュメントなどで確認しましょう [図26](#)。



**図26** 公式ドキュメントコマンド名一覧  
(<http://www.sublimetext.com/docs/commands>)

OSやIME、インストールしたパッケージなどによりショートカットキーが衝突することがあります。意図した挙動にならない場合には、ここで解説した方法でSublime Textのショートカットキーをカスタマイズするか、OS側のショートカットキーを無効化しましょう。

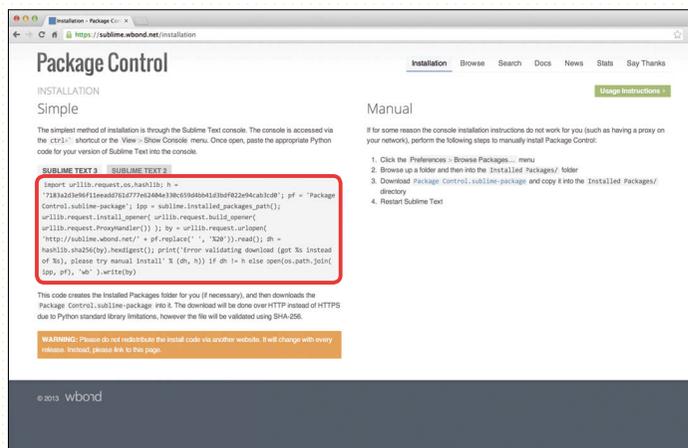
## ① - 6

## パッケージのインストール

Sublime Textは、パッケージと呼ばれる拡張をインストールすることで、より便利に、より自分の手に馴染むエディタになっていきます。そのパッケージの管理をしやすくするためのパッケージがPackage Controlです。パッケージの詳細については第3章以降で解説するので、ここではPackage Controlの使い方を中心に解説します。

## Package Control をインストールする

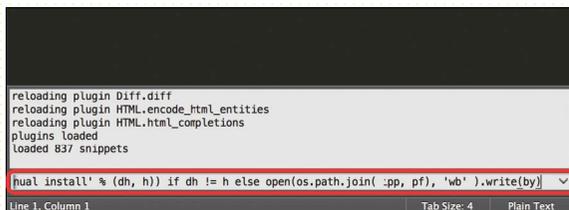
Package Controlのインストール方法にはSimpleとManualの2つがありますが、特別な理由がない限りはSimpleでいいでしょう。Simpleではサイトに掲載されたコードをコピー&ペーストしますが、使用しているSublime Textのバージョンによって利用するコードが異なるので、必ず使用するバージョンのものを用いてインストールしましょう。また、公式サイトに書かれている最新のコードを利用してください [図 27](#)。



[図 27](https://sublime-wbond.net/installation) 公式ページ: Installation - Package Control  
(<https://sublime-wbond.net/installation>)  
赤で囲んだ部分のコードをコンソールに貼り付ける

## インストール方法「Simple」

- ① インストールしたバージョンのコードを公式サイトからコピーする
- ② メニューから [View] → [Show Console] を選択するか、`(control) + [ ]` (Windows では `(Ctrl) + [ ]`) を押してコンソールを起動する
- ③ コンソールの入力欄にコードを貼り付けて `(Enter)` を押す [図28](#)



[図28](#) コンソールを表示して入力欄にコードを貼り付ける

`(Enter)` を押して、少し待つとコンソールに「plugins loaded……」などのメッセージが表示され、Package Controlが使えるようになります。うまくいかない場合は Sublime Text を再起動してみてください。

## インストール方法「Manual」

- ① メニューから [Preferences] → [Browse Packages] を選択してパッケージフォルダを開く
- ② Installed Packages に、公式サイトからダウンロードした Package Control. sublime-package を入れる
- ③ Sublime Text を再起動する

こちらの方法では Sublime Text の再起動が必要な点に注意してください。

## パッケージをインストールする

Package Control をインストールすると、パッケージのインストールは、コマンドパレットと呼ばれる画面からできるようになります [図29](#)。

まずは `(command) + (shift) + (P)` (Windows では `(Ctrl) + (Shift) + (P)`) を押すと、コマンドパレットが表示されます。

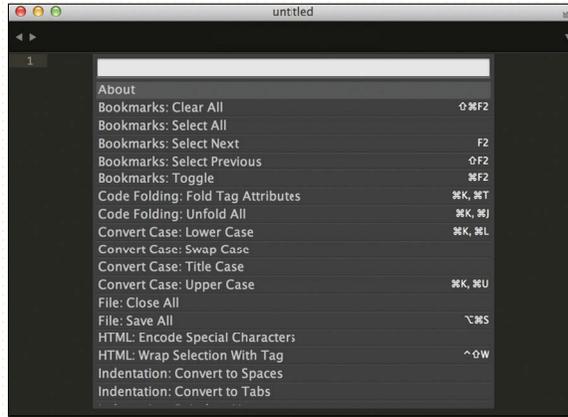


図29 Package Controlインストール後のコマンドパレット

この画面が表示できたら「install」と入力してみましょう。徐々に候補が絞られてきて、「Package Control: Install Package」という項目が表示されたかと思えます 図30。

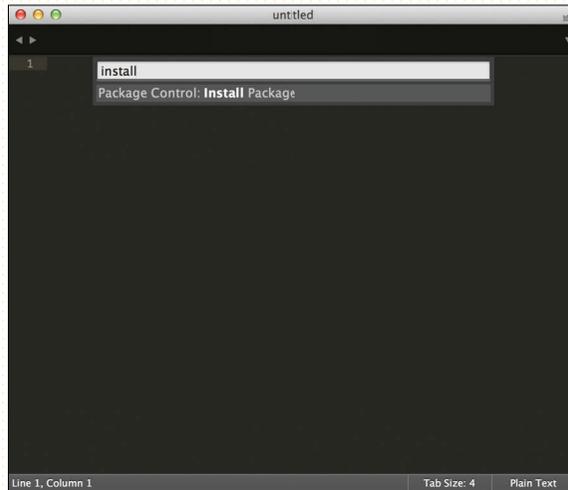


図30 Install Package

「Package Control: Install Package」にフォーカスされた状態で **Enter** を押すと、ステータスバーの左側で通信している様子が見られます。

通信が終わるとコマンドパレットにパッケージ一覧が表示されます。ここに表示されるのは、Package Controlのデータベースに登録されているパッケージです 図31。

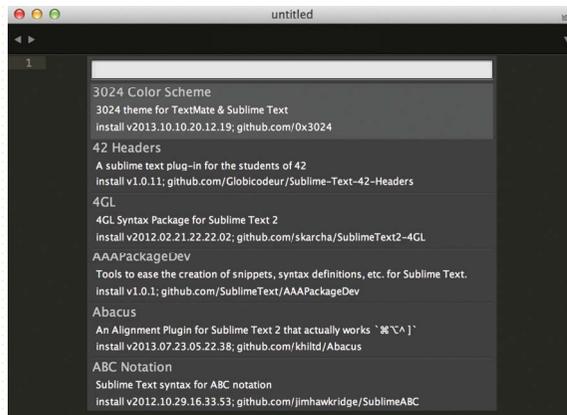


図31 パッケージリスト

「Package Control: Install Package」を選択したときと同じように、思いっく名称を入力してみましょう。普段HTMLコーダーとして作業されている方は「HTML5」や「Emmet」などでしょうか。具体的なパッケージ例については、この後の章で詳しく書かれているので、先にそちらを参照してもいいでしょう。

例として、Emmet<sup>\*32</sup>をインストールする過程を解説します。

コマンドパレットを表示し、Package Control: Install Packageを選択し、入力欄に「emmet」と入力します。

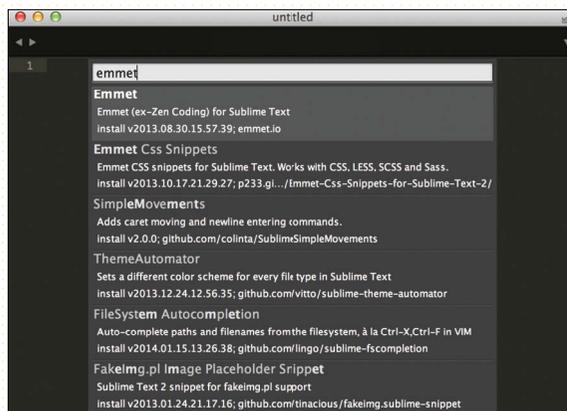


図32 Install PackageからEmmetを検索したところ

徐々に候補が絞られていくので、↑↓などを使い、Emmetが選択された状態にしてEnterを押すとインストールが始まります。

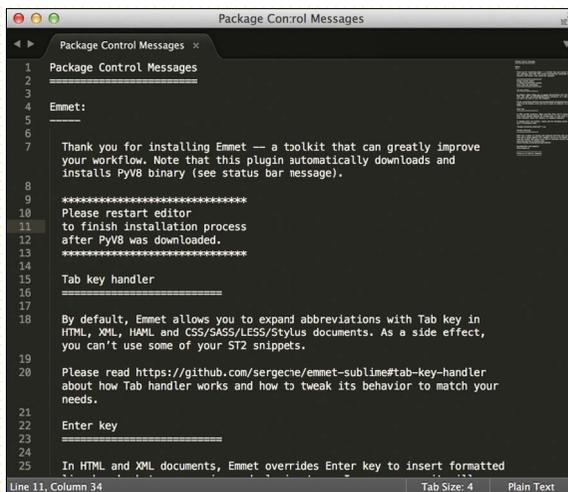
Package Controlのインストール時と同じように、ステータスバーの左下にサーバと通信している様子が見られます。この通信が終わり、表示されたメッセージに従いSublime Textを再起動するとEmmetパッケージのインストール完了

### ヒント\*32

Emmetについて。

詳しくは → P.189

です **図33**。



```
Package Control Messages
1 Package Control Messages
2
3
4 Emmet:
5
6
7 Thank you for installing Emmet — a toolkit that can greatly improve
8 your workflow. Note that this plugin automatically downloads and
9 installs PyV8 binary (see status bar message).
10 *****
11 Please restart editor
12 to finish installation process
13 after PyV8 was downloaded.
14 *****
15
16 Tab key handler
17
18 By default, Emmet allows you to expand abbreviations with Tab key in
19 HTML, XML, HAML and CSS/SASS/LESS/Stylus documents. As a side effect,
20 you can't use some of your ST2 snippets.
21
22 Please read https://github.com/sergeche/emmet-sublime#tab-key-handler
23 about how Tab handler works and how to tweak its behavior to match your
24 needs.
25
26 Enter key
27
28 In HTML and XML documents, Emmet overrides Enter key to insert formatted
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
850
851
852
853
854
855
856
857
858
859
860
861
862
863
864
865
866
867
868
869
870
871
872
873
874
875
876
877
878
879
880
881
882
883
884
885
886
887
888
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905
906
907
908
909
910
911
912
913
914
915
916
917
918
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
930
931
932
933
934
935
936
937
938
939
940
941
942
943
944
945
946
947
948
949
950
951
952
953
954
955
956
957
958
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1009
1010
1011
1012
1013
1014
1015
1016
1017
1018
1019
1020
1021
1022
1023
1024
1025
1026
1027
1028
1029
1030
1031
1032
1033
1034
1035
1036
1037
1038
1039
1040
1041
1042
1043
1044
1045
1046
1047
1048
1049
1050
1051
1052
1053
1054
1055
1056
1057
1058
1059
1060
1061
1062
1063
1064
1065
1066
1067
1068
1069
1070
1071
1072
1073
1074
1075
1076
1077
1078
1079
1080
1081
1082
1083
1084
1085
1086
1087
1088
1089
1090
1091
1092
1093
1094
1095
1096
1097
1098
1099
1100
1101
1102
1103
1104
1105
1106
1107
1108
1109
1110
1111
1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
1123
1124
1125
1126
1127
1128
1129
1130
1131
1132
1133
1134
1135
1136
1137
1138
1139
1140
1141
1142
1143
1144
1145
1146
1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
1168
1169
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176
1177
1178
1179
1180
1181
1182
1183
1184
1185
1186
1187
1188
1189
1190
1191
1192
1193
1194
1195
1196
1197
1198
1199
1200
1201
1202
1203
1204
1205
1206
1207
1208
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215
1216
1217
1218
1219
1220
1221
1222
1223
1224
1225
1226
1227
1228
1229
1230
1231
1232
1233
1234
1235
1236
1237
1238
1239
1240
1241
1242
1243
1244
1245
1246
1247
1248
1249
1250
1251
1252
1253
1254
1255
1256
1257
1258
1259
1260
1261
1262
1263
1264
1265
1266
1267
1268
1269
1270
1271
1272
1273
1274
1275
1276
1277
1278
1279
1280
1281
1282
1283
1284
1285
1286
1287
1288
1289
1290
1291
1292
1293
1294
1295
1296
1297
1298
1299
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
1309
1310
1311
1312
1313
1314
1315
1316
1317
1318
1319
1320
1321
1322
1323
1324
1325
1326
1327
1328
1329
1330
1331
1332
1333
1334
1335
1336
1337
1338
1339
1340
1341
1342
1343
1344
1345
1346
1347
1348
1349
1350
1351
1352
1353
1354
1355
1356
1357
1358
1359
1360
1361
1362
1363
1364
1365
1366
1367
1368
1369
1370
1371
1372
1373
1374
1375
1376
1377
1378
1379
1380
1381
1382
1383
1384
1385
1386
1387
1388
1389
1390
1391
1392
1393
1394
1395
1396
1397
1398
1399
1400
1401
1402
1403
1404
1405
1406
1407
1408
1409
1410
1411
1412
1413
1414
1415
1416
1417
1418
1419
1420
1421
1422
1423
1424
1425
1426
1427
1428
1429
1430
1431
1432
1433
1434
1435
1436
1437
1438
1439
1440
1441
1442
1443
1444
1445
1446
1447
1448
1449
1450
1451
1452
1453
1454
1455
1456
1457
1458
1459
1460
1461
1462
1463
1464
1465
1466
1467
1468
1469
1470
1471
1472
1473
1474
1475
1476
1477
1478
1479
1480
1481
1482
1483
1484
1485
1486
1487
1488
1489
1490
1491
1492
1493
1494
1495
1496
1497
1498
1499
1500
1501
1502
1503
1504
1505
1506
1507
1508
1509
1510
1511
1512
1513
1514
1515
1516
1517
1518
1519
1520
1521
1522
1523
1524
1525
1526
1527
1528
1529
1530
1531
1532
1533
1534
1535
1536
1537
1538
1539
1540
1541
1542
1543
1544
1545
1546
1547
1548
1549
1550
1551
1552
1553
1554
1555
1556
1557
1558
1559
1560
1561
1562
1563
1564
1565
1566
1567
1568
1569
1570
1571
1572
1573
1574
1575
1576
1577
1578
1579
1580
1581
1582
1583
1584
1585
1586
1587
1588
1589
1590
1591
1592
1593
1594
1595
1596
1597
1598
1599
1600
1601
1602
1603
1604
1605
1606
1607
1608
1609
1610
1611
1612
1613
1614
1615
1616
1617
1618
1619
1620
1621
1622
1623
1624
1625
1626
1627
1628
1629
1630
1631
1632
1633
1634
1635
1636
1637
1638
1639
1640
1641
1642
1643
1644
1645
1646
1647
1648
1649
1650
1651
1652
1653
1654
1655
1656
1657
1658
1659
1660
1661
1662
1663
1664
1665
1666
1667
1668
1669
1670
1671
1672
1673
1674
1675
1676
1677
1678
1679
1680
1681
1682
1683
1684
1685
1686
1687
1688
1689
1690
1691
1692
1693
1694
1695
1696
1697
1698
1699
1700
1701
1702
1703
1704
1705
1706
1707
1708
1709
1710
1711
1712
1713
1714
1715
1716
1717
1718
1719
1720
1721
1722
1723
1724
1725
1726
1727
1728
1729
1730
1731
1732
1733
1734
1735
1736
1737
1738
1739
1740
1741
1742
1743
1744
1745
1746
1747
1748
1749
1750
1751
1752
1753
1754
1755
1756
1757
1758
1759
1760
1761
1762
1763
1764
1765
1766
1767
1768
1769
1770
1771
1772
1773
1774
1775
1776
1777
1778
1779
1780
1781
1782
1783
1784
1785
1786
1787
1788
1789
1790
1791
1792
1793
1794
1795
1796
1797
1798
1799
1800
1801
1802
1803
1804
1805
1806
1807
1808
1809
1810
1811
1812
1813
1814
1815
1816
1817
1818
1819
1820
1821
1822
1823
1824
1825
1826
1827
1828
1829
1830
1831
1832
1833
1834
1835
1836
1837
1838
1839
1840
1841
1842
1843
1844
1845
1846
1847
1848
1849
1850
1851
1852
1853
1854
1855
1856
1857
1858
1859
1860
1861
1862
1863
1864
1865
1866
1867
1868
1869
1870
1871
1872
1873
1874
1875
1876
1877
1878
1879
1880
1881
1882
1883
1884
1885
1886
1887
1888
1889
1890
1891
1892
1893
1894
1895
1896
1897
1898
1899
1900
1901
1902
1903
1904
1905
1906
1907
1908
1909
1910
1911
1912
1913
1914
1915
1916
1917
1918
1919
1920
1921
1922
1923
1924
1925
1926
1927
1928
1929
1930
1931
1932
1933
1934
1935
1936
1937
1938
1939
1940
1941
1942
1943
1944
1945
1946
1947
1948
1949
1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
2029
2030
2031
2032
2033
2034
2035
2036
2037
2038
2039
2040
2041
2042
2043
2044
2045
2046
2047
2048
2049
2050
2051
2052
2053
2054
2055
2056
2057
2058
2059
2060
2061
2062
2063
2064
2065
2066
2067
2068
2069
2070
2071
2072
2073
2074
2075
2076
2077
2078
2079
2080
2081
2082
2083
2084
2085
2086
2087
2088
2089
2090
2091
2092
2093
2094
2095
2096
2097
2098
2099
2100
2101
2102
2103
2104
2105
2106
2107
2108
2109
2110
2111
2112
2113
2114
2115
2116
2117
2118
2119
2120
2121
2122
2123
2124
2125
2126
2127
2128
2129
2130
2131
2132
2133
2134
2135
2136
2137
2138
2139
2140
2141
2142
2143
2144
2145
2146
2147
2148
2149
2150
2151
2152
2153
2154
2155
2156
2157
2158
2159
2160
2161
2162
2163
2164
2165
2166
2167
2168
2169
2170
2171
2172
2173
2174
2175
2176
2177
2178
2179
2180
2181
2182
2183
2184
2185
2186
2187
2188
2189
2190
2191
2192
2193
2194
2195
2196
2197
2198
2199
2200
2201
2202
2203
2204
2205
2206
2207
2208
2209
2210
2211
2212
2213
2214
2215
2216
2217
2218
2219
2220
2221
2222
2223
2224
2225
2226
2227
2228
2229
2230
2231
2232
2233
2234
2235
2236
2237
2238
2239
2240
2241
2242
2243
2244
2245
2246
2247
2248
2249
2250
2251
2252
2253
2254
2255
2256
2257
2258
2259
2260
2261
2262
2263
2264
2265
2266
2267
2268
2269
2270
2271
2272
2273
2274
2275
2276
2277
2278
2279
2280
2281
2282
2283
2284
2285
2286
2287
2288
2289
2290
2291
2292
2293
2294
2295
2296
2297
2298
2299
2300
2301
2302
2303
2304
2305
2306
2307
2308
2309
2310
2311
2312
2313
2314
2315
2316
2317
2318
2319
2320
2321
2322
2323
2324
2325
2326
2327
2328
2329
2330
2331
2332
2333
2334
2335
2336
2337
2338
2339
2340
2341
2342
2343
2344
2345
2346
2347
2348
2349
2350
2351
2352
2353
2354
2355
2356
2357
2358
2359
2360
2361
2362
2363
2364
2365
2366
2367
2368
2369
2370
2371
2372
2373
2374
2375
2376
2377
2378
2379
2380
2381
2382
2383
2384
2385
2386
2387
2388
2389
2390
2391
2392
2393
2394
2395
2396
2397
2398
2399
2400
2401
2402
2403
2404
2405
2406
2407
2408
2409
2410
2411
2412
2413
2414
2415
2416
2417
2418
2419
2420
2421
2422
2423
2424
2425
2426
2427
2428
2429
2430
2431
2432
2433
2434
2435
2436
2437
2438
2439
2440
2441
2442
2443
2444
2445
2446
2447
2448
2449
2450
2451
2452
2453
2454
2455
2456
2457
2458
2459
2460
2461
2462
2463
2464
2465
2466
2467
2468
2469
2470
2471
2472
2473
2474
2475
2476
2477
2478
2479
2480
2481
2482
2483
2484
2485
2486
2487
2488
2489
2490
2491
2492
2493
2494
2495
2496
2497
2498
2499
2500
2501
2502
2503
2504
2505
2506
2507
2508
2509
2510
2511
2512
2513
2514
2515
2516
2517
2518
2519
2520
2521
2522
2523
2524
2525
2526
2527
2528
2529
2530
2531
2532
2533
2534
2535
2536
2537
2538
2539
2540
2541
2542
2543
2544
2545
2546
2547
2548
2549
2550
2551
2552
2553
2554
2555
2556
2557
2558
2559
2560
2561
2562
2563
2564
2565
2566
2567
2568
2569
2570
2571
2572
2573
2574
2575
2576
2577
2578
2579
2580
2581
2582
2583
2584
2585
2586
2587
2588
2589
2590
2591
2592
2593
2594
2595
2596
2597
2598
2599
2600
2601
2602
2603
2604
2605
2606
2607
2608
2609
2610
261
```

- **Disable Package**

パッケージを一時的に無効化するコマンドです。パッケージ自体は削除されないで、次に紹介する Enable Package コマンドで再度有効化できます。また、パッケージに必要な Python スクリプトや .sublime-keymap ファイルなどが読み込めなかった場合にも無効になります。無効化されたパッケージは、ステータスバーのメニューから、[Preferences] → [Settings -User] で表示される環境設定ファイル内の `ignored_packages` という項目内に追加されます。

- **Enable Package**

無効にされたパッケージを再度有効化するコマンドです。Disable Package で無効化されたパッケージやデフォルトで無効になっている Vintage を有効化する際に使います。

- **Remove Package**

パッケージをアンインストールしたい場合に使うコマンドです。Disable Package と違い、使用しているマシンからパッケージが削除されるので、再度使用したい場合には、パッケージをインストールする必要があります。

- **List Packages**

インストールしたパッケージの一覧を見るためのコマンドです。一覧には無効化されたパッケージも含まれ、各パッケージの簡単な説明文とバージョンが表示されます。

- **Install Packages**

すでに紹介済みの、パッケージをインストールするコマンドです。デフォルトでは Package Control のデータベースに登録されていて、使用しているバージョンの Sublime Text でインストール可能なパッケージのみがリストアップされます。

これらのコマンドは部分一致のものをリストアップしてくれるので、パッケージ一覧を見たい場合、コマンドパレットで「list」と入力すると、候補に「Package Control: List Packages」が表示されます。

## ヒント\*33

リポジトリとは簡単にいえばプログラムなどの保管場所のことです。

詳しくは → P.124

## Package Control のその他の基本コマンド

以下は必須ではありませんが、覚えておくといざというときに役立つコマンドです。そのほかに独自のリポジトリ<sup>\*33</sup>を追加するコマンドや手動でのパッケージアップデートコマンドなどがありますが、こちらについては第3章にて解説します。

### • Add Repository

Package Controlのデータベースに登録されていないリポジトリを追加するコマンドです。GitHubやBitBucketで公開されているパッケージをインストールおよび自動アップデートができるようになります。このコマンドを実行すると、ステータスバーの上にGitHub or BitBucket Web URL, or Custom JSON Repository URLと書かれているので、隣にある入力欄に追加したいパッケージのURLを貼り付けて[Enter]を押すと、パッケージがインストールされます。GitHubの場合は.gitを除いたURL、BitBucketの場合はhttps://bitbucket.org/username/repositoryという形式のURLを使用します。

### • Upgrade Package

アップグレード可能なパッケージリストを表示するコマンドです。表示されたリストからパッケージを選択し、アップグレードできます。Sublime Textは起動時に自動的にアップグレードするので、定期的に応用を再起動している場合にはこのコマンドを実行する必要はありません。Sublime Textをめったに再起動しない方は、このコマンドでアップグレード情報を確認するといいでしょう。

### • Upgrade/Overwrite All Packages

Package Control以外からインストールしたパッケージを含む全パッケージをアップグレードします。パッケージの内容を改変している場合には、このコマンドは使わないほうがいいでしょう。

### • Package Control Settings – Default

デフォルト設定ファイルを開くためのコマンドです。こちらの設定は、Package Controlのアップグレード時に上書きされてしまいます。ユーザー設定をする際のリファレンスとして使用しましょう。また、Sublime Text 3では、通常の方法では設定が上書きできないようになっています。

### • Package Control Settings – User

Package Controlのユーザー設定ファイルを開くためのコマンドです。カスタマイズ設定は、こちらのファイルに書いていきます。この設定は、Package Controlがアップグレードした場合にも上書きされません。

### • Add Channel

デフォルトでは、Package Controlのデータベースに登録されているパッケージのみが表示されますが、それ以外のリポジトリリストを追加したい場合にこちらのコマンドを使用します。

### • Discover Packages

パッケージ検索のコマンドです。こちらのコマンドはPackage Controlの検索ページから検索するためのコマンドなので、ブラウザが起動します。タグなどから検索することもできるので、思いつく単語でいろいろと検索してみましょう。検索結果から各パッケージの詳細やカスタマイズ方法の確認、公式ページへの移動が可能です。

Sublime Textは起動時にPackage Controlがパッケージのアップデートを確認し、アップデートを実行してくれます。アップデートの確認と実行は、Add RepositoryやAdd Channelでユーザーが追加したものに対しても有効になります。この設定は、Package Controlのユーザー設定ファイルに"auto\_upgrade": falseと追記することでオフにできますが、基本的にはこの機能をオフにする必要はないでしょう。

自動でアップデートされたパッケージの1つ前のバージョンは、パッケージディレクトリの1階層上にあるBackupにアップデートごとに保存されています。何か不具合が起きた場合にはすぐに戻せるメリットもありますが、無限にバックアップを取り続けるので、2つ前のバックアップなど不要なバックアップは定期的に削除するようにしましょう。

そのほかに、Create Package FileやCreate Binary Package Fileというパッケージの開発用のコマンドがありますが、基本的なコマンドからは外れるため割愛します。パッケージの開発についても第3章で簡単に紹介しているので、自分好みのパッケージ作成に挑戦してみたい方はそちらを参考してみてください<sup>\*34</sup>。

#### ヒント\*34

パッケージの種類や管理方法、開発については第3章でも解説しています。

詳しくは → P.116

## ①-7

## 日本語環境の設定

Sublime Textはとても優秀なエディタですが、日本語をはじめとするマルチバイト文字への対応が十分ではありません。デフォルトで対応していないShift\_JISなどの文字コードを使いたい場合には、この項目の設定をしておきましょう。

### Shift\_JIS のサポート

#### ConvertToUTF8

数が減ってきているとはいえ、まだテキストの文字コードをShift\_JISで作成することもあるかと思います。残念ながらSublime TextはShift\_JISに対応していません。

ConvertToUTF8は、Sublime Textが対応していない文字コードのファイルを一時的にUTF-8に変換し、保存時に元の文字コードに戻してくれるパッケージです。Shift\_JIS以外にもアラビア語や中国語などのPython標準エンコーディングで規定されているものに対応できるようになります。

#### Codec33 for ST3

MacおよびLinux環境のSublime Text 3では、ConvertToUTF8をインストールするだけではShift\_JISを使うことができません。使用しているSublime Textがバージョン3の場合、Codecs33というパッケージをインストールする必要があります。

ConvertToUTF8とCodecs33のインストールは、Package Control: Install Package から行えます。

## Windows 版固有の設定

Windows版のSublime Textはインライン変換に対応していません<sup>図34</sup>。これでは入力しにくいので、変換候補の位置を補正するためには、IMESupportというパッケージをインストールします。

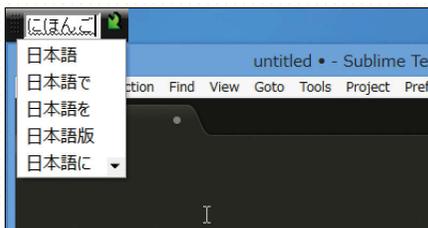


図34 入力中の文字が外部に表示される状態

IMESupportのインストールは、Package Controlから行えます。Sublime Text 2では、インストール後に再起動してください<sup>図35</sup>。

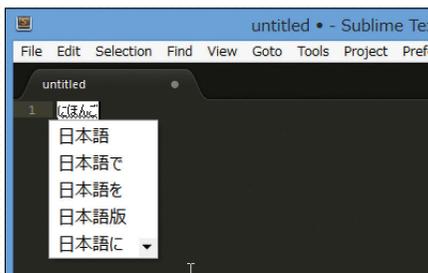


図35 インライン変換に対応した

こちらのパッケージは、インライン変換での不具合をある程度補正してくれるというもので、本書の執筆時点で入力位置の修正は完璧ではありません。

### IMESupportの既知の不具合

- 連続入力時の不具合

IME ONの状態ですべて連続入力する場合、変換確定後の次の1文字が、前の入力開始位置に表示されます。2文字以上入力すると正しい位置になります。

- 新しいViewで表示した場合の不具合

[File]メニューから[New View into File]を選択して、現在開いているファイルを新しいViewで表示した場合、最初のView以外では正しく動作しないことがあります。

正しく動作していない場合は、作者の chikatoike 氏に報告して対応していただくのを待ってみましょう。ほかのパッケージでも同様ですが、報告の際にはスクリーンショットを撮るなどして、できるだけ具体的な症状を伝えるようにしたほうが、パッケージ作者は対応しやすいでしょう。

## IMESupport の制限事項

検索文字列の入力や Goto Anything など、メインエリア以外への入力には対応していないため、これらに入力フォーカスがある場合、強制的に画面左上に表示されてしまいます。

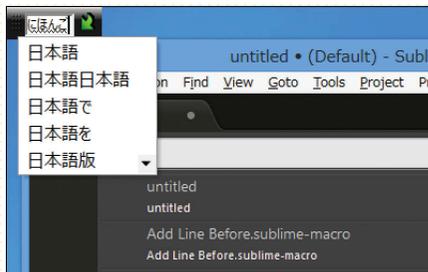


図36 Goto Anything でインライン変換ができない状態

また、画面を垂直に分割している場合、左側に1つもタブ (View) が表示されていないと、右側の View では正しい位置に表示されません。同様に、水平分割している場合に上側に View がない場合は下側で正しい位置に表示されません。

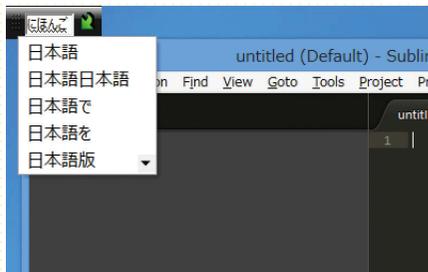


図37 画面分割時にインライン変換ができない状態

## メニューの日本語化について

Sublime Text の導入に積極的になれない理由として挙げられるものの1つに、メニューがすべて英語ということがあるようです。

メニューを日本語化するためには、パッケージを使う方法とファイルを差し替える方法がありますが、導入するパッケージなどに依存するため、どちらの方法でも完全に日本語化することはできません。また、アップデートなどで上書きされる可能性があります。以下に日本語化の方法を挙げますが、本書では Sublime Text のメニューは日本語化せず、英語表記のまま解説しています。

## Japanize でメニューを日本語化する

日本語化に利用できるパッケージはいくつかありますが、今回は Japanize を紹介します。こちらは、差し替えのファイルをパッケージとして利用できるようにしたものです。どちらの方法でも日本語化される内容は同じなので、Japanize のほうが管理が容易です。

- ① Package Control から「Japanize」を検索してインストールする
- ② インストール後に表示される指示に従い設定ファイルを移動する
  - ・ Packages 内に Default フォルダを作成し、Context.sublime-menu.jp のような .jp が付くファイルをすべて移動して .jp を削除する
  - ・ Packages 内の User に Main.sublime-menu を移動する

指示に沿ってファイルを移動するとメニューの大半が日本語化されます。Default や User にオリジナルファイルがある場合には、別の場所に保存しておきましょう。

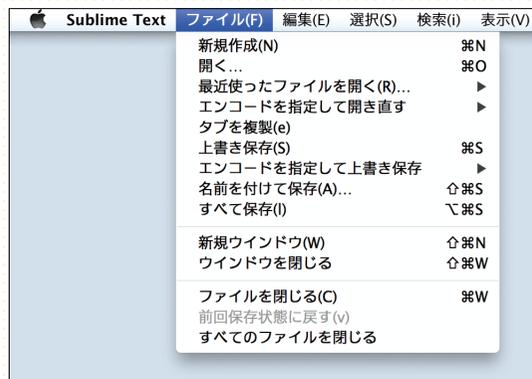


図 38 日本語化された状態

## ① - 8

## テーマの変更

デフォルトの状態ではほかのエディタに比べて地味な印象のある Sublime Text のインターフェイスですが、テーマをインストールすることでインターフェイスの変更が可能です。

## テーマをインストールする

テーマのインストールは、パッケージと同じように Package Control から行えます。テーマとカースキーム<sup>\*35</sup>の組み合わせでより自分好みの外観に変更することができます。今回は、Sublime Text のテーマで最も有名な Soda をインストールしてみます。

## ヒント\*35

カースキームについて。

詳しくは → P.32

- 1 Package Control の Install Package から「Soda」を検索して **Enter** を押す

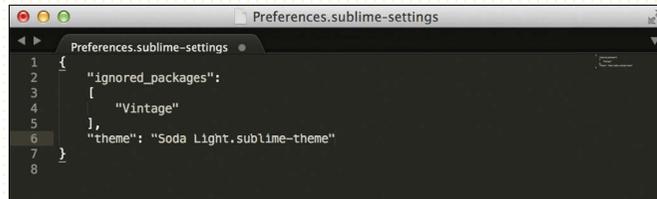
図 39



図 39 Soda の検索結果

② [Preferences] メニューから [Settings - User] を選択し、以下を追記して保存する **図40**

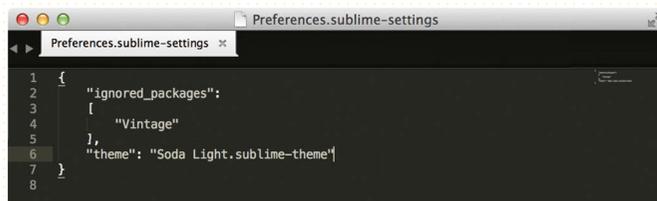
- (Sublime Text 2 の場合) "theme": "Soda Light.sublime-theme"
- (Sublime Text 3 の場合) "theme": "Soda Light 3.sublime-theme"



```
Preferences.sublime-settings
1 {
2   "ignored_packages":
3   [
4     "Vintage"
5   ],
6   "theme": "Soda Light.sublime-theme"
7 }
8
```

**図40** 設定行の末尾に「,」を足して設定を追記

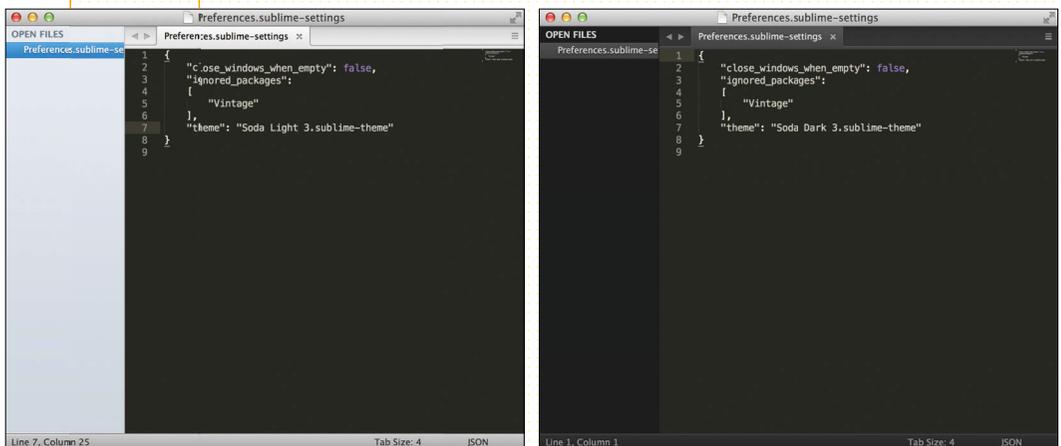
③ 設定ファイルを保存するとテーマが反映される **図41**



```
Preferences.sublime-settings
1 {
2   "ignored_packages":
3   [
4     "Vintage"
5   ],
6   "theme": "Soda Light.sublime-theme"
7 }
8
```

**図41** タブやステータスバーが変化した

SodaにはLightとDarkという2つのデザインがあります。今回はLightを指定しましたが、設定のLightの部分を変えてDarkとすると配色が変わります **図42**。



```
Preferences.sublime-settings
1 {
2   "close_windows_when_empty": false,
3   "ignored_packages":
4   [
5     "Vintage"
6   ],
7   "theme": "Soda Light 3.sublime-theme"
8 }
9
```

```
Preferences.sublime-settings
1 {
2   "close_windows_when_empty": false,
3   "ignored_packages":
4   [
5     "Vintage"
6   ],
7   "theme": "Soda Dark 3.sublime-theme"
8 }
9
```

**図42** Soda Light (左)とSoda Dark (右)

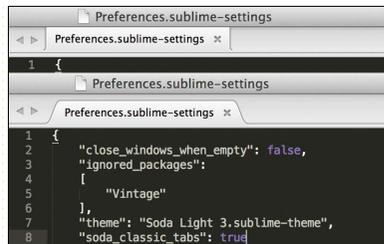
## Soda を利用した外観のカスタマイズ

Sodaでは、タブの角を丸くしたり、サイドバーのアイコンを矢印からフォルダに変更したりすることができます。

### タブの角を丸くする

メニューから [Preferences] → [Settings - User] を選択して環境設定ファイルを開き、以下を追記して保存すると、タブの形が変わります [図43](#)。

```
"soda_classic_tabs": true
```

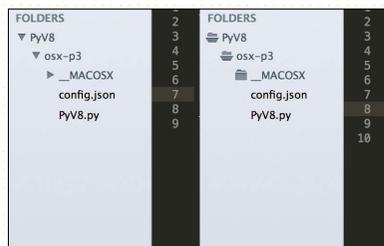


[図43](#) false (上)とtrue (下)

### サイドバーのアイコンを変更する

メニューから [Preferences] → [Settings - User] を選択して環境設定ファイルを開き、以下を追記して保存すると、サイドバーのアイコンが変わります [図44](#)。

```
"soda_folder_icons": true
```



[図44](#) false (左)とtrue (右)

Sodaに限らず、テーマにはオプションが設定できることが多いので、テーマを選ぶときには公式ページなどを参照し、設定可能な項目を探してみましょう。また、Package Controlからだけではテーマが適用された状態はわからないので、Package Control公式ページの検索ページなどからテーマの詳細を確認し、適用した状態を見てみるといいでしょう。

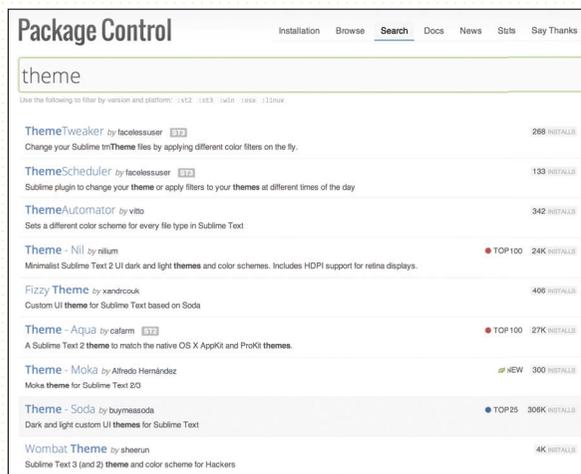


図45 Package Control公式ページ (<https://sublime.wbond.net/>) で「theme」を検索

## アイコンの変更

Flatlandなど、テーマによってはSublime Textのアイコンが同梱されているものがあります(図46)。アイコンはパッケージコントロールからは変更できませんが、Macであれば、アイコンのファイルを上書きすることで変更できます。

- Sublime Text 2  
/Applications/Sublime Text 2.app/Contents/Resources/Sublime Text 2.icns
- Sublime Text 3  
/Applications/Sublime Text.app/Contents/Resources/Sublime Text.icns

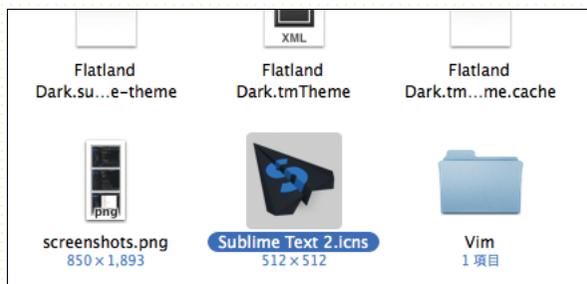


図46 Flatlandのパッケージフォルダを開くとアイコンが入っている (Mac用)

上書きして再起動をするとアイコンが変更されます 図47。



図47 image

Googleなどの検索エンジンで「Sublime Text アイコン」などと検索すれば、Sublime Text用のアイコン素材を配布しているサイトがたくさん見つかります。

Windowsの場合、Macのようにアイコンファイルの直接の上書きでは変更できませんが、画像をicon形式のファイルに変換し、IconChangerのようなexeファイルのアイコンを変えるソフトを使えば変更できます 図48。



図48 IconChanger ([http://aboon.s33.xrea.com/index.php?page=soft\\_iconchanger](http://aboon.s33.xrea.com/index.php?page=soft_iconchanger))

ウェブ せい さく しゃ  
Web 制作者のための  
[サブライム テキスト]  
Sublime Text の 教 科 書  
いま さいこう つか  
今すぐ最高のエディタを使いこなすプロのノウハウ

2014 年 3 月 21 日 初版発行

著 者 うえの まさひろ すぎもと じゅん まえかわ まさゆき もりた そう  
監 修 こもりまさあき

発行人 土田米一

発 行 株式会社インプレスジャパン An Impress Group Company  
〒 102-0075 東京都千代田区三番町 20 番地

発 売 株式会社インプレスコミュニケーションズ An Impress Group Company  
〒 102-0075 東京都千代田区三番町 20 番地  
出版営業 TEL 03-5275-2442  
<http://www.ips.co.jp>

印刷所 株式会社廣済堂

●本書の内容に関するご質問は、書名・ISBN（奥付ページに記載）・お名前・電話番号と、該当するページや具体的な質問内容、お使いの動作環境などを明記のうえ、インプレスカスタマーセンターまでメールまたは封書にてお問い合わせください。電話や FAX 等のご質問には対応しておりません。なお、本書の内容に直接関係のないご質問にはお答えできない場合があります。また、本書の利用によって生じる直接的または間接的被害について、著者ならびに弊社では一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

●造本には万全を期しておりますが、万一、落丁・乱丁がございましたら、送料小社負担にてお取り替え致します。お手数ですが、インプレスカスタマーセンターまでご返送ください。

■ 読者様のお問い合わせ先  
インプレス カスタマーセンター  
〒 102-0075 東京都千代田区三番町 20 番地  
TEL 03-5213-9295 / FAX 03-5275-2443  
[info@impress.co.jp](mailto:info@impress.co.jp)

本書の内容はすべて、著作権法上の保護を受けております。本書の一部あるいは全部について（ソフトウェア及びプログラムを含む）、株式会社インプレスジャパンから文書の許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。

Copyright © 2014 Masahiro Ueno, Jun Sugimoto, Masayuki Maekawa, Sou Morita. All right reserved.  
ISBN 978-4-8443-3567-2 C3055  
Printed in Japan